

山梨県立大学地域研究交流センター

2009

年度研究報告書

年 報

目 次

センター長あいさつ　よりよい地域づくりのために	1
I. 交流・支援部門	3
1. 講師・委員等の応嘱	4
2. 学外からの相談等への対応	5
3. 高校大学連携講座の実施	6
4. 甲府商工会議所との連携	6
5. 忍野村との連携	7
6. ことぶき勸学院との連携	7
7. 教員の地域貢献活動への支援	9
8. ハヶ岳南麓エコツーリズム推進協議会事業への参加	9
9. 学生による地域貢献活動への支援	10
10. 大学周辺自治会との情報交換	11
11. 看護・福祉専門職支援	12
12. 山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウムの開催	13
13. 山梨県立科学館との連携・協力	13
II. 情報発信部門	15
1. ニュースレターの発行	16
2. 年報の発行	17
3. ウェブサイトでの情報発信	17
III. 生涯学習部門	19
【1. センター主催講座】	
1. 「春期総合講座～最前線シリーズ～」	20
2. 「社会人・大学生のためのキャリアアップ講座」	21
3. 「地域プロデューサー養成講座」	22
【2. 地域連携講座】	
1. 「観光講座」	23
2. 「デザイン講座」	24
3. 「子育て支援コーディネーター養成講座」	25
4. 「男女共同参画講座」	27
5. 「甲府市幼児教育センター月齢別講座」	28
【3. 学部共催講座】	
1. 「看護実践講座」	30
2. 「健康講座」	30
3. 「カウンセリング入門研修」	31
4. 「ソーシャルワーカーリカレント講座」	32

5. 「人間福祉学部共催講演会」	32
6. 「保育リカレント講座」	33
7. 「子育て支援フォーラム」	34
【4. 県民コミュニティカレッジ】	
1. 「広域ベース講座」	35
2. 「地域ベース講座」	35
3. 平成21年度（第3期）やまなしインバウンド観光教育プログラム	37
IV. 地域研究部門	43
1. センター・プロジェクト研究	44
（1）大学と地域の連携による多文化共生の推進	44
（2）「よつびし総研」プロジェクト2009	45
（3）忍野村の地域課題と大学の地域貢献に関する研究	46
（4）青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究	47
2. センター・共同研究	49
（1）地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について	49
（2）女性の日常生活と更年期の過ごし方をめぐる地域差の研究	49
（3）「動作解析ソフトウェアによる解析画像を活用した介護動作教育モデルの開発」	50
（4）山梨県産業金融史（戦前編2）	51
（5）国際観光客誘致のための外国語メニューの開発に関するビジネスモデルの研究	51
V. 教育改善・開発部門	53
1. 学生による授業評価の実施	54
2. 「教育評価・改善部会」平成20年度報告書の編集・刊行	55
3. その他の事業	55
VI. 事務局	57
1. 企画運営委員会記録	57
2. 組織図・委員名簿	58
3. 地域研究交流センター委員一覧	59
資料	
1. 年間の時系列記録	60
2. 新聞掲載記事	68
3. フライヤー等	78

(センター長あいさつ)

よりよい地域づくりのために

地域研究交流センター長 波木井 昇

2005年4月に開学した山梨県立大学は、昨年（2009年）3月に初めての卒業生を送り出しました。新たな節目となった昨年4月から、新学長として伊藤洋・元山梨大学副学長をお迎えし、「地域に開かれ、地域と向き合う大学」という山梨県立大学の理念のもとで、新たな大学づくりを始めました。この1年、地域研究交流センターにおいても、よりよい地域づくりのために、また、多くの地域の皆様方から、地域にあってよかったといわれる大学になることを目指して、様々な活動に取り組んでまいりました。さらに、地域研究交流センターが担う一部機能の見直しを行うとともに、今年4月からの公立大学法人山梨県立大学への移行（次ページご参照）の準備を進めました。この年報は、2009年度の地域研究交流センターの活動を5つの事業部門ごとに取り纏めたものです。

●2009年度の新たな取り組み

水と緑のシンポジウムの開催～これからの山梨を考える

日本の社会が成熟化し、経済成長優先の考え方からの脱却が必要になっており、首都圏に近い割に自然環境に恵まれている山梨では、県民の間で特に環境保全に対する意識が強まっているように思います。山梨の環境を資源として捉え直し、環境をキーワードとして今後の地域のあるべき姿や地域戦略を考えていく必要があります。そういう中で、地域研究交流センターでは伊藤学長のリーダーシップのもとで、東京にある財団法人日本開発構想研究所と連携し、これからの環境マネジメントや持続可能な地域活力の涵養・地域育てについて考え、山梨のみならず国内・世界に発信することを狙って、「山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウム」を9月12日に池田キャンパスで開催しました。シンポジウムの前半で基調講演と問題提起を、後半で「緑の空間と保全」、「水循環と生活」、「地域資源と地域戦略」というテーマの3つの分科会で議論を行ないました。当日は約300名もの多数の方々のご来場下さいました。山梨県立大学として今後も環境を含めた地域資源と地域戦略に関し、情報発信を継続的に行っていきたいと考えています。

自治体などとの連携協定の締結

山梨県立大学では2008年度までに甲府商工会議所（2008年3月）及び忍野村（2009年3月）との間で包括的連携協定を締結済みでしたが、2009年度には新たに山梨県立科学館（指定管理者 財団法人山梨県青少年協会）と連携・協力に関する協定を締結しました。この協定のもとで、両者は教育・研究・社会貢献の向上及び文化の発展に寄与することを目的に、相互に専門知識・技術・施設機能の提供、新企画・事業改善策などの情報提供を行うとともに、大学として授業で県立科学館の施設・機能を活用していく予定です。

また、県立科学館との協定のほかに、大学が立地している甲府市との間で、公立大学法人への移行後の2010年4月に包括連携協定を調印することで合意に達しました。この協定により、両者は豊かで活力ある地域社会の形成と地域の振興を図ることを目的に、商工業・観光、まちづくり、健康・福祉・看護、教育・文化、生活・自然環境の各分野や、人的資源の交流、物的資源の相互活用などで連携・協力していく予定です。

大学周辺地域との交流促進

これまで山梨県立大学は地域貢献活動に力を入れてまいりましたが、県内全体を見渡してきたこともあり、必ずしも大学周辺の地域の方々とのコミュニケーションが十分だったとはいえない状況にありました。山梨県立大学が地域に根付いた教育機関になっていくために、大学周辺の方々の意見をも取り入れた活動を行っていく必要があると考え、2009年度から大学周辺の自治会と定期的な情報交換会を持つこととした

しました。2010年2月の初会合には、飯田キャンパス周辺の飯田鶴巻台西自治会、池田キャンパス周辺の荒川自治会、長松寺北部自治会、長南自治会の代表の方々にご参加いただきました。自治会の方々からは、大学が行うイベントや講座などの周辺住民向け情報の発信強化、周辺自治会が開催する文化祭への大学の教職員・学生の書道や絵画などの作品展示、自治会が開催する健康関連行事への大学の教員・学生の参加、などの要望がありました。このほか、大学祭を毎年楽しみにしているなどの励ましの言葉もいただきました。

地域研究交流センターの一部機能の移管

地域研究交流センターには上述の通り5つの事業部門があり、その中のひとつの教育改善・開発部門において、3つの部会（教育評価・改善部会、教養教育開発部会、GP開発部会）を設けて、授業評価や教育プログラム開発などに関する活動を行ってまいりました。2009年度に大学内に新たな委員会（全学FD委員会）が立ち上がったこともあり、2010年4月の公立大学法人への移行を機に、地域研究交流センターは地域に関わる活動を中心に行なうこととし、教育評価・改善部会の機能は全学FD委員会に、教養教育開発部会の機能は教養教育運営委員会にそれぞれ移すとともに、GP開発部会の機能は引き続き地域研究交流センターが担っていくことになりました。

●大学の自己評価に関して

現在、山梨県立大学では全学的に自己点検・評価を進めています。地域研究交流センターの活動の教育面への効果について見てみますと、①地域研究プロジェクトと大学カリキュラムとの連携、②交流支援事業としての学生活動へのサポート、③学部が企画する教育的な研修会・講演会の共催、④生涯学習講座への学生によるスタッフ参加、⑤GP申請に関わる企画立案支援、といった点で学生の教育に関わっており、センターの活動の教育への効果は大きいと考えます。①地域研究プロジェクトと大学カリキュラムとの連携、②交流支援事業としての学生活動へのサポートに関し、最近の具体的な活動は以下の通りです。

①地域研究プロジェクトと大学カリキュラムとの連携

よつびし総研活動における地域振興（熊谷ゼミ）、外国人観光客増加のための外国語並びに観光ピクトグラムを使用したメニュー作成参加（吉田ゼミ）、インターネットを活用した遠隔日本語教育におけるチューター参加（安藤ゼミ）、甲府市外国籍住民実態調査における調査協力（安藤ゼミ）、外国人から見た山梨の魅力調査における調査協力（張ゼミ）、多言語放送番組制作へのスタッフ参加（前澤ゼミ）

②交流支援事業としての学生活動へのサポート

学生優秀地域プロジェクト表彰、多文化共生事業に関わる助成

●2010年4月からの公立大学法人への移行

最後に公立大学法人への移行について触れたいと思います。より自主性・自律性を伴った大学運営が行えるよう、山梨県立大学はこの4月から公立大学法人山梨県立大学になります。これまでは地方公共団体である山梨県の内部組織のひとつという位置づけでしたが、4月からは地方独立行政法人法に基づき山梨県が設立する独立した法人に替わります。大学運営のための財源の多くは、引き続き県からの交付金に依存するものの、大学が多様な事業の展開により自主財源の拡充を図ることが期待されています。4月以降、地域研究交流センターの活動をより一層充実させてまいります。同時に、大学としての自主財源の確保に向けて、地域研究交流センターでは受託研究や学内でのGP申請支援などにも力を入れていきたいと考えています。受託研究については、学内には3学部（国際政策、人間福祉、看護）にわたる教員がおり、これらの人的資源を活用し、必要に応じ学外の研究機関とも連携しながら、受託研究に取り組みたいと思います。自治体やNPOなどの関係者の方々と、ご計画がありましたら、地域研究交流センターまでご相談をいただきたいと思います。2010年度も地域研究交流センターをよろしくお願いいたします。

（2010年3月）

交 流 ・ 支 援 部 門

1. 部門事業の概要

(1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの本学教員に対し、講演・研修等の講師や委員等の委嘱があった。

(2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

(3) 高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を実施した。

(4) 甲府商工会議所との連携

山梨県立大学と甲府商工会議所との包括的連携協定に基づき、2 事業を実施した。

(5) 忍野村との連携

山梨県立大学と忍野村の間での包括連携協定に基づいて活動が進められた。

(6) ことぶき勸学院との連携

ことぶき勸学院学生と本学学生との交流企画を 2 回実施した。

(7) 教員の地域貢献活動への支援

支援メニューを学内教員に周知した。また、メニューに基づく支援を行った。

(8) ハヶ岳南麓エコツーリズム推進協議会事業への参加

センターとしてハヶ岳南麓エコツーリズム推進協議会に参加し、受託事業「ハヶ岳を深く楽しむ「ハヶ岳エコソムリエ」プロジェクト」の一部を担当した。

(9) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、4 件のプロジェクトを認定・支援するほか、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

(10) 大学周辺自治会との情報交換

池田キャンパス周辺の 3 自治会自治会長、飯田キャンパス周辺 1 自治会会長、役員の参加を得て、大学との情報交換会を初めて実施した。

(11) 看護・福祉専門職支援

H20～21 年度の看護・福祉専門職支援に関する研究活動に引き続き、研修会を実施した。

(12) 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウムの開催

標記のシンポジウムを 2009 年 9 月 12 日（土）午後、本学池田キャンパスで開催した。

(13) 山梨県立科学館との連携・協力

山梨県立大学と山梨県立科学館は平成 22 年 3 月に連携協定を締結した。

2. 部門事業の実績と課題について

本年度は、大学周辺自治会との情報交換会、山梨県立科学館との連携協定の締結等新たな事業が加わった。また、学外の各種の事業に積極的に参加している教員、学生も増えてきている。しかしながら、全学的なとりくみにおいてはまだ不足する部分もある。本部門が学内・学外交流・支援の役割を果たすためにどう機能すればよいか、次年度以降、検討課題となる。

1. 講師・委員等の応嘱

本学教員は、学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成21年度の応嘱状況を下の表に示す。これによれば、全学でのべ408件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が287件、委員等が89件、その他が32件であった。学部別には、国際政策学部が33件、人間福祉学部が162件、看護学部が199件、職員等が14件であった。

なお、本報告における数値は平成22年2月17日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が相当数存在すると考えられる。

表1 平成21年度の講師・委員等応嘱状況

	依頼内容名			
学部名	講義・講演	委員等	その他	総計
国際政策	9	19	5	33
人間福祉	127	27	8	162
看護	149	39	11	199
職員等	2	4	8	14
総計	287	89	32	408

表2 平成21年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園		1			1
小中学校		8	3		11
高等学校	1	2	4		7
専門学校			1		1
大学・短期大学	1	2	3		6
県関係機関	4	24	16	2	46
市区町村	1	45	24		70
各種団体	1	35	66		102
医療機関・福祉機関等		5	24		29
省庁等		2			2
その他	1	3	8		12
総計	9	127	149	2	287

表 3 平成 21 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校				1	1
大学・短期大学		2			2
県関係機関	7	9	19	2	37
市区町村	3	4	3		10
各種団体	5	6	15		26
医療機関・福祉機関等			1		1
省庁等	4	4	1	1	10
その他		2			2
総計	19	27	39	4	89

表 4 平成 21 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校			2		2
県関係機関	3	4			7
市区町村			2	8	10
各種団体		3	6		9
医療機関・福祉機関等			1		1
その他	2	1			3
総計	5	8	11	8	32

(文責：川池智子)

2. 学外からの相談等への対応

地域研究交流センターは、学外と大学を結ぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応している。平成 21 年度は、山梨 YMCA からの依頼により、障害者の自立のためのイベント「第 12 回山梨チャリティーラン 2009」（主催：山梨 YMCA ほか）に、学生（50 名）・教員（1 名）をボランティアランナーとして派遣し、最大のボランティア提供団体として同会より「特別賞」を受賞した。特定非営利活動法人スペースふうからの依頼により、環境イベント「エコユース×スペースふう 環境サミット 2009」（平成 21 年 7 月 11 日実施）をスペースふう・学生団体山梨エコユースフォーラム・山梨県立大学の 3 者共催とし、山梨県立大学を会場として開催した。また、「やまなし定住外国人のための健康教室」（やまなし国際保健支援ネットワーク主催・平成 21 年 9 月 27 日実施）を地域研究交流センターの後援とした。これ以外にも把握されていない案件が相当数存在すると思われる。

(文責：吉田均・川池智子)

3. 高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として、城西高校からの依頼を受け、平成 18 年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を本年度も継続して実施した。看護学部 8 名、人間福祉学部 7 名、計 15 名の教員の協力があった。教員名とテーマは以下のとおりである。

火曜日午後(13:45～14:35 14:40～15:30)

人間福祉学部	5 月 26 日	坂本玲子准教授	うつにならない心の健康のつくり方
人間福祉学部	6 月 2 日	神山裕美准教授	自己理解と他者理解～グループアクティビティを通じた連携と協力～
看護学部	6 月 23 日	田淵和子准教授	子供の成長発達と看護
人間福祉学部	8 月 25 日	反町誠准教授	精神障害者の福祉
看護学部	9 月 1 日	平田良江講師	産褥期における母子の変化と看護ケア
人間福祉学部	9 月 8 日	高野牧子准教授	子どもと共に輝く保育～ふれあい遊びの実践より～
看護学部	9 月 15 日	小田切陽一教授	予防医学とその役割
人間福祉学部	10 月 6 日	堀井啓幸教授	教育における少子化問題(仮題)
人間福祉学部	10 月 20 日	伊藤健次講師	介護技術の基礎
看護学部	11 月 10 日	清水恵子教授	青少年の自殺予防について
人間福祉学部	11 月 17 日	池田政子教授	子どもの心を育てる「ことばかけ」
看護学部	11 月 24 日	松下由美子教授	傷の治り方とケア
看護学部	12 月 22 日	渡辺裕子准教授	Into Aging-高齢者の理解を深めるために-
看護学部	1 月 12 日	泉宗美恵講師	地域で療養する人々を支える訪問看護
看護学部	1 月 19 日	溝口孝美助教	食生活が健康に与える影響について

(文責：川池智子)

4. 甲府商工会議所との連携

山梨県立大学は平成 20 年 3 月 27 日、甲府商工会議所との間で、包括的連携協定を締結した。この連携協定は、県立大学と甲府商工会議所が相互に協力・連携し、地域経済の振興、まちづくり等の地域振興、地域福祉及び地域看護を通じた地域活性化、人材育成を中心に地域貢献していくことを目的としている。

この連携協定にもとづき平成 21 年度には以下の 2 つの事業を実施した。(文責：川池智子)

(1) 国際観光推進事業

本学・山梨学院大学・甲府商工会議所との教員(2 名)・職員(2 名)・学生(16 名)の混

成チームで、甲府市の銀座江戸家（平成 20 年～21 年度）と若鯨（平成 21 年）で、ユニバーサルデザインを活用した多言語（日、英、中）モデルメニューの研究と作成を行った。それにより甲府中心商店街などで、外国人観光客向けの集客ツールを作成した。

（文責：吉田均）

（２）学生が主体となった甲府中心市街地活性化事業

学生たちが主体となって活動している「よつびし総研（四菱まちづくり総合研究室）プロジェクト」は平成 21 年度で 3 年目を迎えた。しかし、過去 2 年間の活動によって、「よつびし総研」が単なる「イベント屋」、「ご用聞き」と誤解されがちであったことを反省し、イベント等は中心街にとっても、そこ住む人にとっても、そして学生にとっても意味のある、後々に繋がる活動に絞り込んだ。そのうえで、昨年度から継続している

「甲府・都市空間調査 2009」や「ビシラン・ガイド・プロジェクト」（学生が中心街のお店を独自に調査して、最高「四つ菱」で評価・公表する）、「商店主ヒアリング調査」（一店逸品運動などに積極的に取り組んでいる活力ある商店主をヒアリングをして報告書を作成）などの新規調査研究活動に力をいれた。さらに、「まち友無尽」（行政・大学・商工会議所・商店街・学生の 5 者連携懇談会）という、これまで個別的には連携していたが、総合的かつ有機的には連携していなかった 5 者を学生が触媒となって連携させ、新たなまちづくりの発想や手法、そして取り組みを呼び起こそうという新事業を企画・実施した。

（文責：熊谷隆一）

5. 忍野村との連携

山梨県立大学と忍野村は平成 21 年 3 月 10 日に包括連携協定を締結した。協定に基づき、平成 21 年度は忍野村における地域課題の把握と連携・貢献の可能性の検討を行った。そのために本事業を地域研究交流センターのプロジェクト研究に位置づけて、前澤哲爾教授をリーダーに 3 学部教員が参加して推進する体制を整え、学内における協議と忍野村役場・地域住民との協議・意見交換を行った。事業の詳細は地域研究部門の項に記す。

（文責：箕浦一哉）

6. ことぶき勸学院との連携

（１）福祉コミュニティ学科学生との交流

日 時： 平成 21 年 5 月 20 日（水）9 時～12 時

内 容： 異世代間交流「山梨県立大学へようこそ」

場 所： 山梨県立大学 飯田キャンパス サテライト教室および学内

参加者： 山梨ことぶき勸学院甲府学園生 20 名

山梨県立大学 介護福祉士履修課程 2 年生 18 名

担当者： 県立大学 福祉コミュニティ学科教員（横山貴美子・伊藤健次）

当日の展開：

- ・あいさつ・紹介
- ・交流グループの決定
 - ・勸学院生・学生それぞれ誕生日順に整列
 - ・向かい合った学生（2名）と勸学院生（2～3名）で1グループを結成
- ・グループ交流
 - ・自己紹介、学生からインタビュー、相互交流
- ・グループ活動
 - ・2グループずつの6組を再編
 - ・ペアごとにグループメンバーに対して相方を5分間で紹介する

総括：介護福祉士履修課程所属の2年生18名が、事前におもてなしの具体的なイメージ作りをしたうえで、勸学院生20名を迎えた。終了後、学生は、院生に旺盛な学習意欲とエネルギッシュな生活力を感じ、固定化された高齢者のイメージを変えていかなければならないという感想を寄せ、院生は、メディア等で作られた若者像を払拭していかなければならない、素直に頼りになる若者に出会えたという感想をいただいた。

毎年、新しい院生との交流を持ってきたが、来年度は、院生の学習プログラムの変更により、本交流会は中断することとなった。大変残念であるが、今後は積極的に学生が地域に出向き、様々な活動を展開する時期に来ていると感じている。

（文責：横山貴美子）

（2）看護学部学生との交流

日時：平成21年6月6日（土）9時～12時

内容：異世代間交流 ～ライフ・ヒストリーの交歓～

場所：山梨県立大学 池田キャンパス 101・201 講義室および学内

参加者：山梨ことぶき勸学院甲府学園2学年生 24名

県立大学看護学部2年生（希望者） 19名

担当者：県立大学看護学部老年看護学 流石ゆり子・渡邊裕子・河野由乃・小山尚美・萩原理恵子

当日の展開：

- ・オリエンテーション：あいさつ・紹介
- ・みんなで歌おう『懐かしのメロディー』：歌にまつわる思い出と歌の披露
- ・相互交流（グループ毎に交流）：自己紹介（学生・勸学院生合わせ6～8名）、人生の先輩より若者に贈る言葉、学生より将来の夢を語る 等
- ・相互交流（個別交流（2人でペアになる））：勸学院生のライフ・ヒストリーを中心に看護学生がインタビュー
- ・全体会（交流を通しての感想）：勸学院生・学生全員より参加しての感想を述べ合う

総括：「異世代間交流事業」は今回で4年目を迎えた。毎年参加メンバーは入れ替わっても、勸学院生、学生ともに双方に抱くイメージがプラスに変化するのみならず、大

きな満足感をもたらしていることが伝わってくる事業である。開始後4年の節目を機に、本事業を客観的に評価し、プログラムをさらに充実させていきたいと考えている。

(文責：流石ゆり子)

7. 教員の地域貢献活動への支援

(1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的におこなう地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知した。周知したメニューは以下の通りである。

A. センター主催の「地域交流ミーティング」としての採択・実施

- ・教員による自主的な地域貢献活動のうち適切なものを、センター主催の「地域交流ミーティング」(後述)として実施する。

B. センター「支援事業」の認定・支援

- ・センターの「支援事業」として認定する。認定事業はセンター経費を利用することが可能となる。また、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報などの支援をおこなう。

C. センター「後援」等の名義使用

- ・センターの後援名義の使用を認める。
- ・教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意思表示をするにふさわしいものを対象とする。

D. 学生ボランティアの募集協力

- ・センターが本学での学生ボランティア募集に協力する。
- ・教員が主体的に関与する事業または教員が学外団体から協力依頼された事業で、本学の地域貢献としてふさわしく、かつ学生参加の観点からも適切なものを対象とする。

(2) 平成21年度の実施事業

人間福祉学部 池田政子教授より申請されたセンター支援プロジェクトである『やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト』の公開講座(2009年11月8日、15日 看護学部伏見正江教授他学外研究協力者も参加)を共催事業として支援した。事業の詳細は地域研究部門の項に記される。

(文責：川池智子)

8. ハケ岳南麓エコツーリズム推進協議会事業への参加

ハケ岳南麓エコツーリズム推進協議会に参加し、同協議会が国から受託した「ハケ岳を深く楽しむ「ハケ岳エコソムリエ」プロジェクト」の一部を担当した。同協議会は、北杜市に

拠点を置いて活動する「NPO 法人八ヶ岳南麓景観を考える会」「八ヶ岳ネットワーク」「八ヶ岳歩こう会」「八ヶ岳自然ガイド協会」「パノラマ市場「おばちゃんの会」」「なかーアウトドアーズ」の6団体と山梨県立大学地域研究交流センターによって構成されている。

受託プロジェクトは、八ヶ岳南麓地域の自然・景観・歴史・文化などの地域資源を保全しつつ深く楽しめる仕組みを作ること、観光地としての質を高めることを目指すものである。そのために、地域の魅力を発信できる人材「八ヶ岳エコソムリエ」の育成を中心とした情報発信機能の強化、環境保全やツアー企画・運営を継続的にこなう仕組み作りなどを進める。

地域研究交流センターでは、プロジェクトの取り組みのうち「古民家集落のブロック塀改善と赤道復元からみた新旧住民の意識調査」を担当した。ここでは、古民家がまとまって残る北杜市大泉町谷戸地区において地元住民などへの聞き取り調査を実施し、集落景観や山林内の道の保全・活用の可能性を検討した。このことによって、地元住民と連携して地域資源の保全と活用を進めるための基盤づくりを進めることができた。

この調査事業を進めるにあたり、教員・学生による研究グループを組織した。参加したメンバーは以下の通りである。

代表：箕浦一哉（国際政策学部・総合政策学科・准教授）

参加教員：安達義通（同学科・准教授）

参加学生：渡邊悠衣（同学科4年）、加藤志穂、清水美穂（以上同学科3年）、

雨宮由佳、瀬谷亜里沙、花村さくら、三森さやか（以上同学科2年）

平成21年9月から平成22年2月にかけて4回の現地調査をおこない、20名の住民と6名の関係者に聞き取り調査を実施した。調査結果は報告書に取りまとめたほか、報告会を実施した

（文責：箕浦一哉）

9. 学生による地域貢献活動への支援

（1）「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援制度 実施要項」を平成20年6月に定めた。これは、本学の学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイト公表のほか、センターが可能な支援を行う。

実施要項に基づき、平成21年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

（a）教職員からの推薦

実施要項では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成21年12月に教職員からの推薦を募った。その結果、7件のプロジェクトが推薦された。

（b）選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考をおこなった。選考委員会のメンバーは、

波木井昇センター長、林正健二学生部長、樽林事務局長、小林たつ子教授、清水恵子教授、大塚ゆかり准教授、川池智子准教授、箕浦一哉准教授の 8 名であった。平成 22 年 1 月 15 日に選考委員会が開かれ、協議の結果、4 件のプロジェクトの認定が決定された。

(c) 認定

学長の承認を得たうえで、認定式を平成 22 年 1 月 25 日 12:20～12:50 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室にて開催した。

平成 21 年度 学生優秀地域プロジェクト 認定一覧

番号	プロジェクト名	実施主体名
1	在宅で生活する療養者および障害者の社会活動を支援するためのボランティア活動	在宅看護研究会
2	MLP「多言語放送プロジェクト」	MLP「多言語放送プロジェクト」
3	山梨県立大学エコプロジェクト	山梨県立大学 eco project
4	インバウンド観光教育プログラムに対する学生支援事業	インバウンド観光教育プログラム 学生支援グループ

(2) 「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により、学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信をおこなった。

(文責：箕浦一哉)

10. 大学周辺自治会との情報交換

2010 年 2 月 22 日に大学周辺自治会との初めての情報交換会を行った。参加者は大学側からは伊藤学長、波木井地域研究交流センター長、中村学務課長、相川学務課福主査、川池交流・支援部門長、池田地区周辺自治会からは荒川自治会会長（五味新吾氏）、長松寺北部自治会会長（大久保耕吉氏）、長南自治会会長（保坂求氏）飯田地区周辺自治会からは飯田鶴巻台西自治会会長（宮下健治氏）と同自治会相談役（樋川宏子氏）、同自治会福祉部副部長（荻上喜代子氏）の参加があった。学長から、今後、法人化をするにあたって、さらに地域に根付いた教育機関になっていくために、大学周辺自治会との連携を推進していきたいこと、そのために忌憚のない要望をいただきたい旨の挨拶があった。その後の意見交換の中では、自治会側からは大きくは 3 つの要望が出された。一つは、大学側から、イベントや講座の情報を、もっと地域に発信してほしいという要望である。二つ目は自治会の文化祭に、学生の作品を出品するなどという形で参加してほしいというものであった。三つ目の要望は特に池田地区の周辺自治会からのものであったが、池田地区連合会で開催される健康祭り（毎年 3 月）、健康

研修会（毎年 7 月ないし 8 月）に教員や学生が、参加してほしいという要望であった。大学設立以前は、看護系の教員が講師を務めたり、学生が研究発表（パネル展示）を行うこともあったという。そのほか若い人たちが住むことで明るい街になる、大学祭を楽しみにしているなどといったうれしい言葉もいただいた。さまざまな形で今後も地域に根付いた大学として発展していただきたいという応援メッセージもあり、次年度以降も、このような情報交換の会を、年に 2 回程度、開催していくという合意を確認して会を終えた。

（文責：川池智子）

11. 看護・福祉専門職支援

交流支援部門の一つとして、平成 19 年度より設置した特別担当「看護・福祉専門職支援コーディネーター」部門の活動が 3 年目となる本年は、「看護と介護の連携に関する研修講座等の企画・実施」の活動方針を 4 名の委員で進めてきた。

この活動方針の背景には、本県の高齢化率が 23.0%（H21）と全国平均との格差は縮まってはいるものの、約 2 年早く進行している現状がある。このような長寿社会の中で高齢者の生活支援にあたる看護と介護の専門職のあり方が問われている。このことについて H20 年度県内の介護老人福祉施設及び介護老人保健施設の管理者及び看護職、介護職者の全員にアンケート調査を行い、H21 年 2 月報告会を行った。その中で、施設管理者及び看護職、介護職者の合同の研修会を行なってほしいという声が出され、また調査結果からも同様の示唆が得られた。

そこで今年度は、看護と介護の連携に関する研修会の企画・実施に向けて、老人福祉施設における「特別養護老人ホームの看護を考える会」および「山梨県介護福祉士会」の代表者 11 名で、合同の企画会議を重ね研修会の企画と準備を行ってきた。その結果、「看護と介護のよりよい協働を目指して」と題し、3 月 6 日(土)13:00 から池田キャンパス 101 講義室において、事例を中心に検討しスーパーバイザーを埼玉大学川元先生にお願いし実施する運びとなった。当日はリーダー・主任クラスの 45 名（看護職 17 名、介護職 28 名、計 45 名）と学生 3 名の参加者があり、事例や資料をもとに自分の問題として引き寄せて考え、これからのあり方を具体的に再認識し解決の方向性を見出した有意義な研修会であった。今後もこのような研修会を切望する意見が多く、また今回を機会にセンターが参加者の身近な社会機関になったと述べていた。看護職と介護職が職域を越えて合同で研修を行うという機会は県内では新しい取り組みであり、今後のよりよいケアのために共に研修会を実施、継続し発展させていきたい。

また、平成 20 年度の調査結果を日本在宅ケア学会にて「介護老人保健・福祉施設における看護職と介護職の連携に関する要因の検討」と題し発表したところ、現場の関心の高さが伺え、看護と介護の円滑な連携を図るための方策を開発することが喫緊の課題であることが再確認された。また、出版社より調査結果をもとに現場の実態についての掲載依頼があり、連携の課題を提起していく機会を得た。

これらの活動が専門職としてのよりよい協働のために、さらに発展していくことを期待し

ている。

(文責：小林たつ子)

12. 山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウムの開催

山梨は首都圏に隣接している割に、自然環境に恵まれており、県民の間でも環境保全に対する意識が高まっている。そのような中で、地域研究交流センターでは伊藤学長のリーダーシップのもとで、財団法人日本開発構想研究所と連携し、これからの環境マネジメントや持続可能な地域活力の涵養・地域育てについて考え、山梨のみならず国内・世界に発信することを狙って、「山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウム」を平成 21 年 9 月 12 日（土）午後、本学池田キャンパスで開催した。

シンポジウムでは、まず 2 名の講師による以下の基調講演を行った。

(1)『山梨の自然の魅力』 エッセイスト・翻訳家 青木奈緒氏

(2)『水と環境に恵まれた風土』 山梨大学大学院教授 砂田憲吾氏

続いて、3 名の識者による問題提起があり、その後、「緑の活用と保全」、「水循環と生活」、「地域資源と地域戦略」というテーマの 3 つの分科会で議論を行った。「水循環と生活」に関する分科会では、アジア 3 カ国からの研究者による英語での報告もあった。

当日は約 300 名という多数の方々の来場があり、盛況のうちに終了した。県立大学では今後も環境を含めた地域資源の保全・活用と地域振興に係わるテーマで、情報発信を継続的に行なっていきたい。

(文責：波木井昇)

13. 山梨県立科学館との連携・協力

山梨県立大学と山梨県立科学館は両者の運營業務の活性化、相互の教育・研究・社会貢献の発展のために、平成 22 年 3 月に両者の連携・協定を締結した。具体的には（１）相互に専門知識・技術・施設機能を提供すること、（２）相互に新企画・事業改善策などの情報を提供すること、（３）本学の授業において県立博物館の施設・機能を活用すること、（４）県立博物館は、インターンシップ事業で学生を支援すること、（５）その他総合が合意した次号を協力して行うことの 5 項目において協力・連携することとなる。

(文責：川池智子)

情報発信部門

1. 部門事業の概要

(1) 地域研究交流センターニューズレターの発行

地域研究交流センターニューズレターは、大学と地域を結ぶ機関紙として、2005年のセンター開設以来年2回発行し、県内外に配布している。今年度は下記の通り発行した。

①2009年9月10日 Vol.9 発行（担当：大塚ゆかり、山本武信）

②2010年2月19日 Vol.10 発行（担当：大久保ひろ美、森本 美智子）

(2) 年報の発行

毎年度末に、地域研究交流センターの事業実績をまとめた年報を作成している。今年度は2009年度年報（本報告書）を2010年3月に500部発行した。

(3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイト上において、センターの概要、地域支援、生涯学習の案内、地域研究、教育改善、刊行物等について情報発信している。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修の案内は、タイムリーな情報発信がなされ広く県民への広報に役立っている。また、2008年度に認定された学生優秀地域プロジェクトの活動報告を掲載した。

2. 部門事業の実績と課題について

ニューズレター、年報、ウェブサイトの媒体を用いて情報発信を進め、地域研究交流センターの事業活動についての内外への周知を行った。こうした情報発信は事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用された。

他の部門事業と同様、情報発信部門事業においても、担当する教職員は研究・教育や他の学内業務と並行して部門事業にあたっており、効率的な業務の遂行が求められている。本年度は、ニューズレター発送業務においてアルバイトを雇用し、効率的な業務の一助とした。

ニューズレターについては5年間で10号を数えたが、これを節目として、発行時期や内容、デザインなどを再考し、さらに効果的な情報発信を図りたい。また、ウェブサイトは十分に活用されているとはいえないので、効率的で効果的な情報発信について検討を続けたい。

1. ニュースレターの発行

地域研究交流センターニュースレターは、大学と地域を結ぶ機関紙であり、大学の教員や学生による地域貢献、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を県内に紹介するとともに、全国に向けて発信する役割を持つ。2005年のセンター開設以来、A4判カラー8ページで、年2回発行され、県内外に配布している。

2009年度は2号のニュースレターを発行した。発行部数は5,000部で、このうち3,647通を関係先481箇所へ発送している。内訳は、県関係(53箇所)、市町村(28箇所)、図書館(48箇所)、県内大学(11箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育園等、132箇所)、企業(14箇所)、県内非営利活動法人(64箇所)、県内高校(54箇所)、その他(77箇所)である。各号の概要は以下の通りである。

(1) ニュースレター Vol.9 の発行

2009年9月10日発行のニュースレター第9号の特集記事は、鼎談「大学・企業・NPOの地域貢献と連携」であった。これは、(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ社長・海野一幸さん、NPO法人スペースふう理事長・永井寛子さん、本年度就任した伊藤洋学長に語り合ってもらったものである。

そのほか、学生の地域貢献プロジェクトとして、「大学ダンスフォーラム in 山梨」「ヘルスプロモーションクラブ」の2件の活動を紹介した。センター事業の記事として、教育GP「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト」および春季総合講座の事業報告、今年度新規にスタートしたプロジェクト研究の紹介、今後開催される講座の告知を掲載した。他に、新センター長のあいさつ、連載のユニーク教員紹介を掲載した。

(2) ニュースレター Vol.10 の発行

2010年2月25日発行のニュースレター第10号では、地域研究交流センターの地域研究部門の事業にスポットをあてた特集記事を掲載した。プロジェクト研究として、平成17年度より4年間継続して実施された「多文化共生」、「少子高齢化時代の地域ネットワーク」、「やまなし地域女性史」の取り組みを紹介した。共同研究については、平成18年度から20年度に実施された内容を一表にした。

また、センター事業報告として、「山梨県立大学観光講座」、「やまなしインバウンド観光教育プログラム」、「看護・福祉専門職支援コーディネーター」、「忍野村との連携事業」、「山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連来国際シンポジウム」についてとりあげた。

更に、本学の法人化に伴う地域研究交流センターの構想の他、連載記事であるユニーク教員紹介と、Vol.9に引き続き学生優秀地域プロジェクト紹介を掲載した。

(文責：大久保ひろみ)

2. 年報の発行

『山梨県立大学地域研究交流センター年報』は、1年間の地域研究交流センターの事業実績をまとめたものである。2005年度のセンター開設以来毎年度末に発行し、学内外の関係各位に配布するほか、地域研究交流センター説明資料として随時活用している。また、自己点検評価等の資料としても活用されている。

2009年度の年報は2010年3月末に発行した（本冊子）。発行部数は500部とし、学内教職員のほか、県内関係機関、市町村、ほか関係各位に配布した。

（文責：箕浦一哉）

3. ウェブサイトでの情報発信

山梨県立大学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、各種の情報発信をおこなっている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信を行っている。センター主催事業以外に、センターが支援・後援する事業についても記事を掲載して広報をおこなうことで、大学の地域貢献活動を幅広いものにしている。今年度の新規の試みとして、2008年度に地域研究交流センターが認定した学生優秀地域プロジェクトの活動報告を掲載した。他に、センターの概要等について紹介しているほか、ニューズレター・年報はPDF形式のファイルでサイトに掲載している。

（文責：箕浦一哉）

生涯学習部門

1. 部門事業の概要

地域研究交流センターでは、下記の講座を開催した。

(1) 地域研究交流センター主催講座

- ①春期総合講座（3回）
- ②社会人・大学生のためのキャリア・アップ講座（6回）
- ③地域プロデューサー養成講座（1回）

(2) 地域連携講座

- ①観光講座（4回）
- ②デザイン講座（4回）
- ③子育て支援コーディネーター養成講座（8回）
- ④男女共同参画講座（3回）
- ⑤幼児教育センター月齢別講座（12回）

(3) 学部共催講座

- ①看護実践講座（1回）
- ②健康講座（1回）
- ③「カウンセリング入門」研修会（5回）
- ④ソーシャルワーカーリカレント講座（1回）
- ⑤人間福祉学部共催講演会（1回）
- ⑥保育リカレント講座（1回）
- ⑦子育て支援フォーラム（1回）

(4) 県民コミュニティカレッジ（広域2回・地域4回）

(5) インバウンド観光講座（15回）

2. 部門事業の実績と課題について

生涯学習部門では、社会人を対象とした新たな主催講座の開発と、学部・地域との共催等により計18種類の講座を開催した。講座の増設によって、今年度は、昨年度よりさらに幅広い地域住民のニーズに応えることが可能となった。来年度に向けては多様な講座の企画と、講座開設にあたってより計画的な広報活動を実施する予定である。

今年度より試行的に、学内インターンシップとして地域研究交流センター講座に12名の学生（地域研究交流センター学生サポーター）を採用した。この制度を来年度以降も継続して実施し、学生と地域研究交流センターの関係をより密にするとともに、仕事を通じた実務経験、講座参加を通じた学習の両面から大学の学生教育に資するものとしたい。

また、今年度も例年通りセンター主催講座を中心にアンケート調査を実施し、受講者のニーズ把握に努めてきた。来年度は、これらのアンケート結果を元に、地域の求める生涯学習とは何かという点に関して具体的な検討を行う。独立行政法人化を迎え、大学の知的リソースを生かした講座の充実を図るとともに、一部講座の有料化を視野に入れた生涯学習部門の効率的な運営と、体制作りが課題である。

【１．センター主催講座】

1. 「春期総合講座～最前線シリーズ～」

（１）概要

毎年、地域研究交流センターの春の講座として「春期総合講座～最前線シリーズ～」が開催されている。今年度は、今年度春期総合講座は、山梨県立大学の新しい顔である伊藤洋新学長、看護学部・人間福祉学部の新学部長である佐藤悦子教授、藤谷秀教授を講師に迎えた。

各回のテーマ及び講演内容は下表のとおりである。

第一回	5月23日(土)	講師	伊藤 洋	(山梨県立大学 学長)
(サテライト教室)		演題：「よりよいコミュニケーションをめざして」		
人が、「バラ」を買うのは「バラ」に付随した「意味」、「愛・熱情・恋」などその時代・時代に現れては消える「シンボル」によるのである。人がコミュニケーションを行うときも同様、言語のコードが正確に伝わることは重要だが、それだけでは真の理解には至らない。人が言語コードに付随した「シンボル」をさまざまに操るからである。ここでは、シンボルを通じてより良いコミュニケーションについて考える。				
第二回	5月30日(土)	講師	佐藤 悦子	(看護学部 学部長)
(サテライト教室)		演題：「在宅療養を支える～高齢になっても、病気になっても、住みなれた地域で暮らし続けるために～」		
近年、患者さんの入院期間がどんどん短くなってきている。医療の依存度が高い人でも、安定してくれば退院し在宅で治療を継続している。どんな障害や症状を持っていたとしても、ご本人やご家族が住み慣れた家で安全に安心して生活できるよう、それを支える専門職としての看護師や保健師の活動と、よりよく在宅療養を続けられるためにどうしたらよいかを考える。				
第三回	6月6日(土)	講師	藤谷 秀	(人間福祉学部 学部長)
(サテライト教室)		演題：「人の価値について」		
「価値」とは、良し悪しのことである。この言葉を「人」に対して言うとき、ある種の落ち着いたなさを覚えてしまう。現代社会では至る所で、「人の価値」が測られている。では、いったいどんな基準で「人」の良し悪しを測れるのだろうか、そもそも「人」の良し悪しを測ることができるのだろうか。このような「人と価値」をめぐる問題(古くて新しい問題)を、受講者とともに考える。				

（２）実施状況

1回から3回まで、県立大学A館6階のサテライト教室で実施された。参加者は、第一回32名、第二回39名、第三回56名、計127名（回答者95名）である。受講者からは、今回の講師による同テーマの連続講座を希望する旨の要望が寄せられた。

(文責：安藤淑子)



2. 「社会人・大学生のためのキャリアアップ講座 1」

(1) 概要

地域研究交流センター主催講座として今年度新たに実施した、社会人・大学生向け講座である。第1期3回は、7月12日（日）に実施される簿記3級試験を視野に入れた「簿記入門集中講座」として実施された。会場はいずれもA501教室。

第一回	6月26日（金）	講師	帆足 俊彦（山梨県立大学国際政策学部）
商業簿記の基礎としての基本的な仕訳と計算問題対策及び伝票・試算表・決算対策など			
第二回	7月3日（金）	同	上
検定試験3級の模擬試験問題を中心に試験対応できる技術を学ぶ			
第三回	7月10日（金）	同	上
実際の過去問題を解いて、本試験に合格できる技術を習得する			

(2) 実施状況

連続した3回の講座の参加者は、第一回39名、第二回39名、第三回40名、（内3回すべて出席33名）であった。申込者の所属は、学外の一般参加者8名、山梨大学7名、山梨大学大学院1名、県立大学職員1名、県立大学学生29名、不明2名である。

「社会人・大学生のためのキャリアアップ講座 2」

(1) 概要

第2期は、「社会人のための企業取引最前線」をテーマに、外部講師2名を招いて実施された。会場はサテライト教室。

第一回	11月13日（金）	講師	澁谷 彰久 氏（山梨県立大学 国際政策学部教授）
演題：「金融取引における法的視点」			
企業や個人が倒産した時、民事再生法など最新の倒産法制について、その実態としくみを初心者にもわかりやすく解説する。			
第二回	11月27日（金）	講師	山崎 利明 氏（山梨中央銀行 営業統括部副部長）
演題：「地域における金融ビジネス」			
山梨県内における産学官連携、農産物のマッチングフェアなど、地元金融機関の地域活性化に向けたさまざまな取組みについて、具体例を交えわかりやすく解説する。			
第三回	12月11日（金）	講師	中島 弘雅 氏（慶応義塾大学 教授）
演題：「よくわかる倒産法入門」			
銀行や証券会社ではいろいろな金融商品を販売している。法律的には預金とローン、株式と債券、保険商品はどこがどう違うのか？ 身近な金融取引を法的視点から改めて考えてみる。			

(2) 実施状況

第一回8名、第二回10名、第三回10名の参加者があった。 （文責：安藤淑子）

3. 「地域プロデューサー養成講座」

日程と会場： 2010 年 2 月 20 日(土) 午前 9 時 30 分～午後 7 時（懇親会含む）

講師：前澤哲爾（山梨県立大学 国際政策学部 教授）

趣旨と目的：

中央集権から地域主権の時代に移行すべきだという論議が盛んに行われていますが、地域主権が成立するためには、地域自身でリーダーシップを発揮していかなければなりません。

地域にとって最も必要とされているのは、誰かから頼まれたわけではなく、自発的に自律的に創造的に地域のために活動できる人材です。領域は異なっている、同じ高い志を持って、地域を牽引する多くの才能を輩出することを目指します。

本講座は、4 年目を迎え、今年度で一旦終了いたします。

2006 年度は、山梨県立大学で隔週平日夜 10 回連続、2007 年度からは、忍野村、山梨市、増穂町での地域開催で、土日連続 15 時間の講座を行い、2008 年度は、引き続き南アルプス市、大月市で開催しました。延べ 250 人以上の方が参加されました。

そして、2009 年度は、山梨県立大学で、1 日だけの集中講座です。昨年度までは、受講者の意識化を目的とした、全員でのワークショップでしたが、本年度は、講義を中心としています。主宰者である前澤哲爾が、今までどういう風に各種プロジェクトを企画立案し、組織化し、運営してきたかをすべてお話します。ノウハウの全貌を明らかにします。このテーマでは山梨県で初めて話すことになります。

話題は、以下を予定しています。

1. 日本にフィルムコミッション（FC）をどういう風に導入したか。
2. アジアの FC ネットワークをどう作ったか。
3. 小学校に社会人講師を送る活動をどう進めたか。
4. 東京国際映画祭の改革の突破口をどう切り開いたか。
5. 山梨で、YDP、MLP、PACなどをなぜ始めたか。
6. 2010 年度、新規に取り組もうとしていることは何か。

内容では、以下のことを中心に語ります。

1. 人脈形成と組織づくり
2. 企画立案と持続性
3. 運営と危機管理

（文責：前澤哲爾）

【2. 地域連携講座】

1. 「観光講座」 プロフェッショナルが語る「観光の本質」～映画・音楽・アート・出版からみえるもの～

会場：第1回・2回：山梨県立大学飯田キャンパス講堂

第3回・4回：山梨県立大学飯田サテライト教室

時間：14：00～16：00

07年度から始まったこの講座は、今年度で3年目を迎える。

07年は、「富士山に頼らない山梨の観光」と題して、JTB 会長、韓国観光公社東京支社長、富士屋ホテル副社長などの観光重鎮専門家を招き、総論のシンポジウムを行った。

08年度は、「現場の知恵」と題して、3回シリーズを企画し、長野県白馬村前村長、山形県鶴岡市「庄内映画村」社長、福島県会津若松市「くつろぎ宿」社長に講演を依頼した。

そして、09年は、直接的には観光業と関係ないそれぞれの領域のプロフェッショナル4人から、観光に関する示唆に富んだ話を聞く機会を作った。

概要は以下の通り。なお、この講座内容については、山梨日日新聞が毎週詳細記事を掲載した（巻末の報道資料参照）。

◆第1回 11月7日（土）「映画監督」崔 洋一 氏 参加者 80 名

日本映画監督協会理事長、宝塚造形芸術大学教授 監督作品には、93年『月はどっちに出ている』、95年『マークスの山』、98年『犬、走る。』、99年『豚の報い』、02年『刑務所の中』、04年『クイール』、『血と骨』、07年『壽』（初の韓国映画）、09年『カムイ外伝』がある。

◆第2回 11月14日（土）「ブロードキャスター」Peter Barakan 氏 参加者 80 名

ロンドン大学日本語学科を卒業後、1974年来日。現在フリーのブロードキャスターとして活動、「CBS ドキュメント」（TBS テレビ）、「ビギン・ジャパノロジー」（NHK 総合テレビ）、「ウィークエンド・サンシャイン」などを担当。

◆第3回 11月23日（月・祝）「アートディレクター」北川フラム 氏 参加者 40 名

（株）アートフロントギャラリー代表取締役、地中美術館総合ディレクター、新潟市美術館館長、女子美術大学芸術学科教授。主なプロデュースとして、「アントニオ・ガウディ展」（1978-79）「アパルトヘイト否！国際美術展」（1988-90）等。街づくりの実践では、「ファースト立川アート計画」（1994）「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（2000～）など。

◆第4回 11月28日（土）「出版編集者」藤岡比左志 氏 参加者 40 名

ダイヤモンドビッグ社代表取締役社長 1980年ダイヤモンド社入社。雑誌編集を10年、書籍編集を8年担当。「ダイヤモンド経営者倶楽部」編集長、「ダイヤモンドZ A i」誌創刊編集長。2008年から「地球の歩き方」シリーズ発行元のダイヤモンドビッグ社代表取締役社長。

（文責：前澤哲爾）

2. 「デザイン講座」

(1) 概要

今年度のデザイン講座は、「つながりを育むデザイン」という全体テーマのもとに、山梨県工業技術センターの協力を得て全4回実施した。

第一回 11月15日(日) 13:30-16:00 (飯田キャンパス講堂)

講師: 柳本浩市 氏 (Glyph.代表)、聞き手: 秋本梨恵 氏 (山梨県工業技術センター)

演題: SOCIAL=DESIGN デザインと社会とのつながり

デザインが社会にどのような影響を与えてきたか、過去の優れたデザインから見える、デザインと社会とのつながりについて学ぶ。

第二回 12月12日(土) 10:00-16:00 (飯田キャンパス・サテライト教室)

講師: 雨宮千春 氏 (cocochi 代表・編集者)、保坂紀明 氏 (グラフィックデザイナー)

ワークショップ: 「町をつなぐ、編集とデザイン」

実際に町を歩き、発見したことをもとに受講者全員で小さな冊子を手作りする。ワークショップを通じて地域の人、もの、ことをつなぐデザインの力について考える。

第三回 1月31日(日) 13:30-16:00 (飯田キャンパス講堂)

講師: 梅原 真 氏 (梅原デザイン事務所)、聞き手: 並木淳 氏 (JAGDA 会員)、秋本梨恵 氏 (山梨県工業技術センター)

演題: 「考え方をデザインする 一次産業×デザインでつなぐ土佐の地域力」

地域の第一次産業再生をデザインの力によってプロデュースした事例を元に、地域経済の在り方、商品開発の手法、地域で生きる生き方のヒントを発見する。

第四回 2月6日(土) 13:30-15:30 (飯田キャンパス・サテライト教室)

講師: 兼松佳宏 氏 (greenz.jp クリエイティブディレクター)

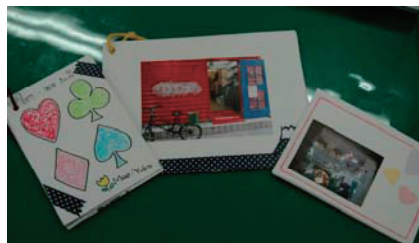
演題: 「場づくりのデザイン 環境活動、地域活動の現場から」

近年、学校や企業・組織といった枠を超えて、同じ興味を持つ人が集まり、新しい未来をつくるための場づくりのデザインを考える。

(2) 実施状況

受講者は、第一回 32 名、第二回 16 名、第三回 80 名、第四回 35 名である。

なお、今回のデザイン講座には、地域研究交流センター学生サポーターが 12 名 (人間福祉学部 7 名、国際政策学部 5 名) 参加し、会場設営、受付、資料配布、アンケート調査回収、その他の協力を行っている。



＜第二回講座で作成した冊子＞

(文責: 安藤淑子)

3. 「子育て支援コーディネーター養成講座」

第5期子育て支援コーディネーター養成講座は37名が修了され、5年間にわたる事業で、20代から70代まで221名の修了生の皆様が、県内20市町村で子育て支援ネットワークの拠点としてご活躍いただけることとなりました。

今期の皆様はすでに子育て支援のプロとして実績があり、講座の様々な学びを吸収し、いかに自分の実践活動へとつなげていくか、積極的で、主体的な学びの姿勢を強く感じました。グループでの話し合いもスムーズで、多くの活発な意見交換の中、内容的にも素晴らしい企画をパワーポイントも駆使して、生き生きと発表されました。グループ内で意気投合し、夢企画を実現する予定のグループも生まれたと伺います。全8回の概略は次頁表1に示します。

今期の最終回には汐見稔幸氏（白梅学園大学学長）をお招きすることができ、子どもたちが群れて生き生きと遊んでいる昭和30年代の写真を提示いただき、からだを通して遊び関わる大切さ、子どもが元気に成長する子育て支援の在り方を見つめ直す機会となりました。

受講者による4段階評価では、今期は総合平均が3.8となり、昨期よりもさらに高い評価をいただくことができました。特に最終回では満足度が4.0と皆様にご満足いただけたことは、5年間の集大成として本当に嬉しく思います。講座講師を務めていただいた県外、県内講師の皆様と受講生の皆様が共に作り上げていった講座の成果だと考えます。また、共に運営にご尽力いただきました県社会教育課のご担当の皆様にも深く感謝申し上げます。

今後、子育て支援コーディネーター修了生の皆様と同窓会のように集い合い、ネットワークを確かめ合う機会を設けていきたいと考えます。子育て支援を自分の手で担いたいという情熱をさらにつなぎ合い、連携して、より力強くきめ細やかな子育て支援ネットワークが山梨県全体へ広がり、子育てが楽しくなるような温かな力となりますことを期待しております。

皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

（文責：高野牧子）



写真 熱心なグループディスカッションが展開する

表1 2009年度 子育て支援コーディネーター養成講座実施内容

	月 日	内 容	講 師
1	6月12日 (金) (県立大学 サテライト教室)	テーマ 「山梨県子育て支援の施策と課題」	
		受付	
		開講式・オリエンテーション	
		「子育て支援施策の新たな展開 ～子育て支援分野における自治体間競争の激化の中で～」	北杜市児童家庭課課長 吉田 昌司 氏
		「山梨県の次世代育成政策」	県福祉保健部児童家庭課 課長補佐 川手 雄仁 氏
		「子育て支援の文化間比較」	山梨県立大学 教授 山田 千明 氏
		グループディスカッション「山梨の課題・自らの課題を探る」	
2	7月10日 (金) (県立大学 サテライト教室)	テーマ 「子どもの創造性を育む」	
		ワークショップ「子どもの創造性を育む造形表現」	プレイワーク主宰 ねもといさむ 氏
		ワークショップ「親子で楽しむ身体表現アイデア集」	山梨県立大学 准教授 高野 牧子 氏
		グループディスカッション	
3	7月31日 (金) (県立大学 サテライト教室)	テーマ 「地域の方で虐待予防」	
		「社会的養護から見る子ども家庭」	山梨県立大学 客員教授 加賀美 尤祥 氏
		「虐待から守る 子どもからのメッセージを受け止める」	山梨立正光生園子ども家庭支援センターラ主任相談員(臨床心理士) 岩藤 裕美 氏
		グループディスカッション「事例研究 虐待予防 その対策」	
4	8月28日 (金) (県立大学 講堂)	テーマ 「やまなし子育て支援コーディネーターの集い」(シンポジウム)	
		「やまなし『親』学習プログラム」の活用	子育てサポーターリーダー 恩田 加代 氏 子育てサポーターリーダー 塚田 純子 氏
		シンポジウム	
		「つながり」と「支え合い」の子育て支援	第1期 甲斐市社会福祉協議会 地域福祉担当リーダー 米山 宗久 氏
		子育て支援センター立ち上げまで	第2期 子育て支援センターきつすやつしろ 代表 宮川 久美子 氏
		地域拠点の活用 面で抑える子育て支援	第3期 甲府市 子育てサポーターリーダー 藤 原 静 氏
		地域で支える子育て	第4期 市川三郷町山保学童クラブ 指導員 畑川 かおる 氏
		つながりタイム	
		講演「一人の人間として、生きる・つながる」	長野県短期大学 講師 金山 美和子 氏
5	9月11日 (金) (県立大学 サテライト教室)	テーマ 「心と体から健康を考える」	
		「子育て支援における『食』へのアプローチ」	山梨県立大学 講師 鳥居 美佳子 氏
		「カウンセリング入門 一健やか子育ての援助一」	山梨県立大学 准教授 坂本 玲子 氏
		「子どもの行動を理解するー注目の仕方子どもは伸びる」	アドラー心理学カウンセラー 手島 羽つ枝 氏
6	9月25日 (金) (県立大学 サテライト教室)	テーマ 「コーディネート力養成 子育て支援企画」	
		「魅力ある企画と人材発掘コーディネイト」	山梨県立大学 教授 前澤 哲爾 氏
		グループワーク 「子育て支援 夢企画」	
7	10月9日 (金) (総合教育センター パソコン室)	テーマ 「PC利用のプレゼンテーション」	
		初心者用 「素敵なチラシ、PCで作ろう」	山梨県立大学 准教授 池田 充裕 氏
		中・上級者用「パワーポイントでアピール」	県総合教育センター 主幹・研修薬袋 秀樹 氏 県総合教育センター 研修主事 河野 良一 氏
		グループワーク 「子育て支援企画の作成」	
8	11月13日 (金) (県立大学 講堂)	テーマ 「やまなし子育て支援への期待」	
		企画発表準備「輝け企画プレゼンテーション力UP↑」	
		企画発表	
		講演「子育て支援 今後への期待」	白梅学園大学学長 汐見 稔幸 氏
		企画発表および講座全体の評価	有明教育芸術短期大学 教授 阿部 真美子 氏
		まとめ・閉講式	

各回 コーディネーター 山梨県立大学教授 池田 政子 准教授 高野牧子
事務局 社会教育課 副主幹 杉山 由貴子 主査 河西 美沙子

4. 「男女共同参画講座」

□ 趣旨：南アルプスハーモニープランの推進委員一人ひとりが地域の特性を生かした地域づくりを推進するため、男女共同参画社会の形成について理解を深めるとともに、その課題に気づき、推進活動の必要性を認識することをねらいとし、山梨県立大学地域研究交流センターと連携して、男女共同参画講座（全3回）を実施した。

□ 研修テーマ 「男女共同参画の地域づくりをめざして」

回	期日	内容（講演及びワークショップ）
1	8月3日 午後7時30分～9時30分	“男女共同参画”って、どんなこと？
2	9月11日 午後7時30分～9時30分	なぜ“男女共同参画”か
3	9月24日 午後7時30分～9時30分	あらためて男女共同参画の視点から地域の暮らしを考える ——私のできること・私たちのできること

□ 講師：池田政子（山梨県立大学人間福祉学部教授）

□ 場所：南アルプス市役所

□ 主催：南アルプス市・南アルプスハーモニープラン推進会議

共催：山梨県立大学地域研究交流センター

□ 参加者：南アルプスハーモニープラン推進委員35名、担当職員2名

□ 受講感想：30～40代の夫婦、男性・女性に聞いてもらいたい内容であった。意識を変えるのには若い人がよいと思った／これからの活動に大変役立つ講座であった／わかりやすい講座であった／大変勉強になった等



（文責：池田政子）

5. 「甲府市幼児教育センター月齢別講座」

月齢別講座は3ヶ月から2歳児まで、4つのコースがあり、年齢に合わせて様々な講座を行っています。

3ヶ月～8ヶ月未満児の講座は、中央部幼児教育センター、北部幼児教育センターの2箇所で行っていますが、8ヶ月～1歳3ヶ月未満児の講座は、中央部幼児教育センター、北部幼児教育センター、アネシス（中道）幼児教育センターの3箇所で行っています。

お母様方の育児の中でお困りのこと・気がかりなことが少しでも解決に近づき、子育てのお手伝いできればと、微力ながら3名の教員で日程調整をしながら講師を努めさせていただいています。この講座をきっかけにして、些細なことでも相談できるお母様同士のお友達の輪が広がり深まることを願っています。

（文責：田淵和子）



【8ヶ月～1歳3ヶ月未満児講座 終了記念写真】

（撮影：北部幼児教育センター 子育てアドバイザー中村幸子氏）

表1 平成21年度甲府市幼児教育センター 月齢別講座一覧（看護学部担当）

●3～8ヶ月未満児		中央部		北部	
	テーマ	日程	講師	日程	講師
第1期	育児の気がかり	7月 2日	大久保講師	7月 9日	茂手木講師
第2期	育児の気がかり	10月 22日	大久保講師	10月 22日	茂手木講師
第3期	育児の気がかり	2月 4日	大久保講師	1月 28日	茂手木講師
●8ヶ月～1歳3ヶ月未満児		中央部		北部	
第1期	育児の気がかり	7月 14日	田淵准教授	6月 30日	田淵准教授
第2期	育児の気がかり	10月 27日	大久保講師	10月 27日	茂手木講師
第3期	育児の気がかり	2月 2日	田淵准教授	1月 19日	田淵准教授
第1期	育児の気がかり	7月 7日	田淵准教授	アネシス（中道）	
第2期	育児の気がかり	10月 20日	茂手木講師		
第3期	育児の気がかり	1月 26日	田淵准教授		

1歳3ヶ月～2歳児、2歳児コース（表2参照）は、人間福祉学部で担当しており、大きく2つの内容から構成しています。教員が講師を務める講座ではそれぞれの専門性を活かし、研究で得た知見をわかりやすくお伝えするよう、心がけています。もう一つは、学生たちが参加する交流企画です。毎年、1年生は自作の遊具を持ち込み、初めての子育て支援活動に取り組みます。また2年生は劇発表を主にした1時間の子育て支援活動を企画します。学生たちは、子どもの様子から多くのことを学ぶと共に、保育者としてのやりがいも大いに感じているようです。今後も子育て支援活動に教員も学生も積極的に関わり、地域貢献を果たしていきたいと存じます。

（文責：高野牧子）



第Ⅱ期 「一緒に遊ぼう！」 自作の遊具で遊ぶ子どもの様子から学ぶ

表2 平成21年度甲府市幼児教育センター 月齢別講座一覧（人間福祉学部担当）

●1歳3ヶ月～2歳児		中央部	北部	
	日程	テーマ・講師名	日程	テーマ・講師名
第1期	7月17日	「親子で楽しくふれあい遊び」 高野牧子准教授	7月10日	親子の食生活 鳥居美佳子講師
第2期	10月30日	「“わからずやさん”とつきあうために」池田政子教授	10月23日	左同
第3期	1月29日	「絵本で楽しむコミュニケーション」山田千明教授	1月22日	左同
●2歳児		中央部	北部	
	日程	テーマ・講師名	テーマ・講師名	
第Ⅰ期	7月1日	「親子で楽しく遊ぼう！踊ろう！」 高野牧子准教授	「親子で楽しく音あそび」 沢登英美子教授	
	7月8日	「子育ての安全を考える」 堀井啓幸教授		
第Ⅱ期	10月28日	「一緒に遊ぼう」人間形成学科1年 引率：池田充裕准教授・古屋祥子講師	「一緒に遊ぼう」人間形成学科1年 引率：堀井啓幸教授・高野牧子准教授	
	11月4日	「勇気づけの子育て」坂本玲子准教授		
第Ⅲ期	1月20日	「心を育むことば」池田政子教授		
	1月28日	「劇遊び発表会」人間形成学科2年 引率：高野牧子准教授・池田充裕准教授	「劇遊び発表会」人間形成学科2年 引率：沢登英美子教授、古屋祥子講師	

【3. 学部共催講座】

1. 「看護実践講座」（専門職向け講座）

テーマ：体験から学ぶ災害時における看護活動
～連携がいのちを支えいのちをつなぐ～

講師：福井大学医学部看護学科 酒井明子教授

日程：10月2日（金）18:30～20:30

対象：看護職者、看護系教育機関学生及び教員、
地域住民

参加者数：39名



本公開講座は、平成20年10月24日に開催が予定されていたが、集中豪雨により中止に至った経緯がある。聴講を希望する看護関係者や教員も多かったので、本年度の看護実践講座として開催することに決定した。災害医療の概要についての説明は具体的で非常にわかりやすく、講師自らが災害地において行った看護活動の記録写真が数多く資料として提供され、災害看護の現状がリアルに伝わる内容であった。事後のアンケート結果によると、39名の参加者の内、26名（74%）が「期待通りの内容だった」と回答し、またスマトラ（インドネシア）における大地震の直後に開催されたこともあり、タイムリーな企画としても評価を受けることができた。

2. 「健康講座」（地域住民向け講座）

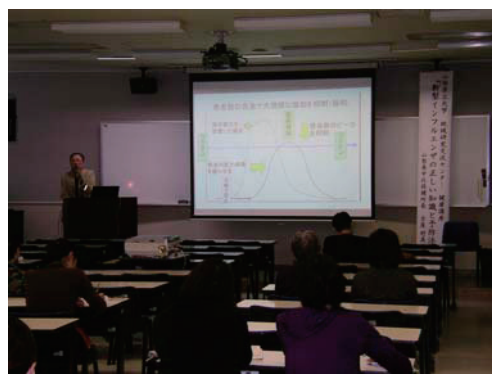
テーマ：新型インフルエンザの正しい知識と予防方法

講師：古屋好美氏（中北保健所長）

日程：11月7日（土）14:00～16:00

対象：地域住民、県立大学学生および教職員

参加者数：32名



本講座では、県民の健康生活へのニーズに応えることを目的として、2009年に世界的な大流行となった新型インフルエンザについての正しい知識と具体的な予防方法（日常生活の過ごし方、マスク着用の具体的方法、うがい・手洗いの方法等）について外部講師に講演を依頼した。当日の参加者からは「新型インフルエンザと季節性インフルエンザの違い、対処の仕方、予防法などについて詳しく知ることができた（4名）」「新型インフルエンザを広い視野で分析し、今後どうすればよいかを具体的に示唆する内容であった（2名）」というコメントが寄せられた。事後のアンケート結果においても、32名の参加者の内、19名（73%）から「期待通りの内容だった」という回答があった。

両講座とも、案内を大学ホームページに掲載し、県内の医療施設・行政機関等へポスターを配布するなどの広報活動を行ったが、参加者数の増加には至らなかった。講座の企画・内容とともにそのPR方法についても併せて検討する必要があると言える。

（文責：杉田由仁）

3. 「カウンセリング入門研修」

「ラボラトリー方式による体験学習」を用いて、カウンセリングの基礎の学習を行った。

(1) 研修のねらい

- ・ 「自分」を様々な角度から点検する
- ・ “今ここ”で他者と関わることによって、自分の対人関係力やコミュニケーション力に気づく
- ・ カウンセリングの基本を体験を通して学ぶ

(2) 対象者

対人援助職に就いている方（教員、臨床心理士、スクールカウンセラー、保育士、子育て支援員、看護師）

(3) 研修内容

6月20日（土） 13時半～17時 24人

エクササイズ「私の窓」を通して、参加メンバー相互の関係形成を行い、研修での学習を行っていく上での契約を結んだ。エクササイズ「名画鑑賞」を使って、今ここで何が起きているかに気づく学びを行った。

7月18日（土） 13時半～17時 20人

自分のコミュニケーションや対人関係のあり方に気づくために、エクササイズ「白樺山荘」を実施。

8月 7日（金） 18時半～21時 14人

相手の話を聴くとはどういうことかを体験的に学ぶことと、自分のコミュニケーションのあり方に気づくために、指示書を使ってのロールプレイを実施。

11月 8日（日） 13時半～17時 11人

自分の人との関わり方、コミュニケーションのあり方に気づくことと、集団作業を通して、グループの中での自分、他者の様々な動きに気づくために、無言の集団作業を実施した。

12月19日（土） 13時半～17時 17人

良い相談を可能にする道を探ることと、ブレインストーミングを学び自分の考え方の特徴に気づくために、参加者を4～5人のグループで「良い相談とはなにか」を検討した。

（文責：文珠紀久野）

4. 「ソーシャルワーカーリカレント講座」

社会福祉現場の実務者を対象に、現場実践に役立つ知識や技術の習得と、大学・実践現場との情報交換を目的に、下記のように講座を実施した。

ソーシャルワークは経験や勘だけで行うものでなく、近年、理論的根拠に基づいた実践が求められている。根拠に基づいた実践を行うためには、ソーシャルワークの実践モデルから考えると説明ができる支援方法も多い。本講座では、豊富な事例に基づき、実践理論モデルの活用についての講義をいただいた。

日時 2009 年 11 月 24 日（火） 午後 6 時半～8 時半
場所 山梨県立大学 飯田キャンパス・サテライト教室
講演テーマと講師

「ソーシャルワーク実践モデル」の理解と活用
早稲田大学人間科学学術院 教授 加瀬裕子先生

対象 社会福祉分野の実務者
(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・相談員等)

参加者 47 名

5. 「人間福祉学部共催講演会」

社会福祉分野の研究成果や動向を学ぶ機会とするため、「子どもと家庭への支援や地域福祉」について、地域の社会福祉・教育関係者、及び学生を対象にして講演会を開催した。

英国ではソーシャルワークや保健部門が連携して、問題を抱えた子どもや家族への地域での早期支援のために、“Children’s Centres”が設置されている。その評価調査を5年間実施したT・スミス先生の研究より、その現状や課題をご講演いただき、あわせて、厚生労働省及び内閣府の子ども支援政策にかかわる棕野美智子先生より、日本の現状や政策動向をご講演いただいた。

日時： 2010 年 2 月 8 日（月） 午後 1 時～3 時半

場所： 山梨県立大学飯田キャンパス講堂

講演テーマと講演者

「地域における子どもと家庭への支援について～日本の現状と政策動向～」

棕野美智子氏（大分大学福祉科学研究センター教授）

「英国の子どもと家庭に関連したソーシャルワークと地域福祉」（日本語通訳付き）

テレザ・スミス氏講演（オックスフォード大学 前教授）

対象者：山梨県立大学人間福祉学部学生、及び山梨県内教育・福祉機関や施設関係者

参加者：63 名

（文責：神山裕美）

6. 「保育リカレント講座」

テーマ：保育・子育て支援のためのコミュニケーション・スキルを磨く

—子ども・親・私 それぞれの思いを活かすために—

日時：平成 22 年 3 月 6 日（土）午後 1：30～4：00

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス・サテライト教室

共催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科

対象：幼稚園教諭・保育士・子育て支援者・学生など

内容：①相手の気持ちを受けとめ、自分の思いを伝える基礎的な技法を学ぶ。

②参加者の様々な事例を材料に、子どもや親とのコミュニケーションを深めるにはどうしたらよいか、ワークショップ形式で学ぶ。

講師：田中きよみ 氏（コミュニケーション・トレーナー）

（文責：安藤淑子）



7. 「子育て支援フォーラム」

第三回である今年度は「多文化共生時代の子育て支援」というテーマでパネルディスカッションを開催した。パネリストご自身の体験に基づいたお話や、海外での実践例の紹介、そして熱い議論により、密度の濃い時間を共有できた。もっといろいろな話を聴いてみたい、という声もあり、ほぼすべての参加者が本フォーラムの内容について「期待以上」「期待通り」との回答であった。多くの参加者にとって、「多文化共生」に向けての子育て支援を考える契機になったのではないかと考えられる。

◆目的：子育て中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生たち、学生を教育する教員、自治体の担当者など、関係者が一堂に会して、それぞれの思いを共有することにより、本県の子育て支援の質の向上を図るとともに、本学の子育て支援にかかわる今後の教育と地域貢献のあり方を探究する。

◆対象：子育て中の方、子育て支援関係者、保育／教育関係者、学生等このテーマに関心を持つ方

◆日時：平成 22（2010）年 1 月 23 日（土） 14:00～16:00

◆会場：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

◆参加費：無料／託児：あり（2 名が利用）

◆パネリスト

保育園の立場から：富田 秀香 氏（山梨県中央市立田富第一保育園保育士）

研究者の立場から：山岡 テイ 氏（情報教育研究所所長）著書：『多文化子育て（学習研究社）』『地域コミュニティと育児支援のあり方（ミネルヴァ書房）』等

日本で子育てするペルー人の母親の立場から：西田 ジャケリネ 氏・柴田 ミエコ 氏
（ペルー出身、日本で子育て中の母親、日系南米人コミュニティの声）

子育て中の国際結婚家庭の立場から：吉田 恵貞 氏・吉田 均 氏

（恵貞氏は台湾出身、均氏は本学国際政策学部准教授）

◆司会・コーディネーター：山田 千明

◆参加者：114 名（内訳）一般参加者 16 名、山梨県私立幼稚園協会 10 年経験者研修対象者 11 名、本学学生 79 名（人間福祉学部 56 名、国際政策学部 23 名）、本学教員 8 名

○参加者の感想より：実際に現場の方、母親の方、研究者の方と様々な視点からの思いや考えを聞くことができた／文化と文化の違いの中で、どのように共通点を見つけ、よりよい関係を築いていくか、今後の課題だと思った／子どもにも、その親にもサポートが必要だということがよく分かった／一人の日本人として外国人との関わり方を見つめ直す良いきっかけになった／言葉・コミュニケーションの大切さを知った／様々な立場からの子育て支援があると感じた 等

（文責：山田千明）



【４．県民コミュニティカレッジ】

１．「広域ベース講座」（帝京科学大学・健康科学大学共催）

リカレント講座：「QOLの向上で今を生き抜く」

第一回 10月3日（土）14：00-15：30 会場：山梨大学

基調講演 講師：流石ゆり子（山梨県立大学看護学部教授）、渡辺裕一（健康科学大学准教授、萩原弘毅（帝京科学大学教授）

第二回 10月10日（土）14：00-15：30 会場：山梨大学

「あなたの高齢期はどのくらい幸せですか」

講師：渡辺裕一（帝京科学大学准教授）

第三回 10月17日（土）14：00-15：30 会場：山梨大学

「要介護状態にある高齢者のQOLを支えるために」

講師：流石ゆり子（山梨県立大学看護学部教授）

第四回 10月24日（土）14：00-15：30 会場：山梨大学

「地元で生き抜く 一人で悩まない老後のために」

講師：長谷川辰男（帝京科学大学講師）、松山朋子（帝京科学大学講師）、椎名喜美子（帝京科学大学教授）

第五回 10月31日（土）14：00-15：30 会場：青少年センター

「自然の力でQOLの向上をめざす」

講師：宮崎良文（千葉大学教授）、峯崎友香理（帝京科学大学助教）、戸島真砂子（帝京科学大学看護師）

２．「地域ベース講座」（山梨県立大学主催）

（１）概要

今年度の県民コミュニティカレッジ（地域ベース講座）は、「コミュニケーション入門：異なる背景のひとびとと理解し合うために」というテーマのもとに、以下のような日程、内容で実施された。会場は4回ともすべて山梨県立大学サテライト教室。

第一回 10月10日（土）10：30～12：00 講師：宇土 泰寛 氏（椋山女学園大学教育学部教授） 演題：外国人児童をいかに多文化共生空間づくりとコミュニケーション
日本の子どもと外国人の子どもが共に学び合う、多文化共生の空間づくりとしての教室を実践的な立場から考える。
第二回 10月10日（土）13：00～15：00 講師：山田 千明 氏（山梨県立大学人間福祉学部教授） ワークショップ：異文化体験アクティビティ
異文化を疑似体験することで、自分とは異なる文化への感じ方、行動を振りかえり、異文化交流のあ

り方を考える。
第三回 10月24日(土) 14:00～16:00 講師:梶原 睦子 氏(山梨県立大学看護学部教授)・穴澤貞夫(東京慈恵医科大学教授) 演題:医療者との上手なつきあい方
病院では自分の病状をきちんと話し、医療者からの説明もきちんと聞いて理解することが大切である。医療者とコミュニケーションをうまく取るための方法を考える。
第四回 10月31日(土) 14:00～16:00 講師:神山 裕美 氏(山梨県立大学人間福祉学部准教授) 演題:人と人をつなぐコミュニケーション～聴く・わかる・尋ねるために～
対人援助の場や、職場でのコミュニケーションを題材にしながら自分を振り返り、まわりの人たちのコミュニケーションを見直してみよう。

(2) 実施状況

参加者は、第一回 22 人、第二回 21 人、第三回 12 人、第四回 16 人である。第二回のワークショップでは、県立大学の学生 6 名がファシリテータとして参加した。

受講者の感想として、以下のようなものが寄せられた。

- ・現場の実践を具体例として出していただき、とてもわかりやすい内容でした／講座と言っても実践的なものがあつたので、実際コミュニケーションがとれて良かったです／両者の理解しがたい壁とはなにか、分かり合うとはどういうことか深めていただきたいと思います／多文化共生の問題は大変複雑で自分なりに色々考えていましたが、今日お話を伺って、新しい知識を得ることが出来て良かったです。

(文責：安藤淑子)



異文化体験アクティビティ実施状況

3. 平成21年度（第3期）やまなしインバウンド観光教育プログラム （文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」）

本講座は、本年度で3年目、最終年を迎える。講座は2つのプログラムと実習コースがある。

（1）インバウンド観光事業企画力養成講座（定員30名）

～サブタイトル：ホテル・旅館業で外国人観光客を倍増するための観光戦略～

受講期間：平成21年6月29日（月）～平成21年12月17日（木）

受講申し込み者数：26人

目標は以下の通り：

- ・ 国別のインバウンド観光のニーズやそれに対する今日の山梨県における観光サービスの課題を具体的に把握する。
- ・ 山梨県の観光資源（シーズ）とその魅力などを理解し、それらを活用しながら、インバウンド観光のニーズに対応した具体的なインバウンド観光戦略の考え方を身に付ける。
- ・ 第3期では、特にホテルや旅館などの宿泊業に従事する方や将来就職を希望する方、または宿泊業との連携により新たな事業を検討している方などを対象として、外国人観光客にとって魅力ある宿泊施設並びに観光地づくりのノウハウを身に付ける。

（1）インバウンド観光事業企画力養成講座 概要

第1回	6/29（月）12:00～13:30	■インバウンド観光概論	
	【場所】山梨県立大学 山梨県観光部国際交流課 社団法人やまなし観光推進機構 山梨県立大学 前澤哲爾 教授	日本の国際観光は、現在どこまでできているのかを把握するとともに、山梨の現状と取り組みについて解説します。	
第2回	6/29（月）13:40～15:10	■問題意識の顕在化	
	【場所】山梨県立大学 山梨県立大学 前澤哲爾 教授	受講者に問題意識アンケートをご記入いただき、その内容に基づいて自己紹介を行います。さらに、今後課題に取り組んでいただくためのグループ分けを行います。	
第3回	7/13（月）12:00～15:10	■インバウンド観光客の受入体制の整備	
第4回	【場所】山梨県立大学 山梨県立大学 吉田 均 准教授	外国人観光客に安全かつ快適に宿泊いただくため、昨年度実施した活動を紹介します。あわせて、モデル施設での外国人モニターによる評価、ピクトグラムによるサイン計画や周辺地図・外国語メニューの作成など、今年度の受講者の要望に合わせた実習計画を話し合います。	
第5回	7/27（月）12:00～15:10	■インバウンド観光における広報戦略	
第6回	【場所】山梨学院大学 駒澤大学 青木茂樹 教授	外国人観光客を誘致するには、広報戦略が極めて重要です。ここでは、主に個人観光客を対象としたホテル・旅館等の情報発信	

	山梨学院大学 伊東洋晃准教授 山梨県立大学 吉田 均 准教授	の現状と課題を明らかにするとともに、より積極的な集客を目指した広報戦略や、WEBなどを用いた具体的な情報発信の方法について詳しく解説します。
第 7 回 第 8 回	10/22 (木) 12:00~15:10 【場所】山梨県立大学 JT B グローバルマーケティング & トラベル GMT ツーリズム総合研究所 小林裕和 所長	■インバウンド観光ツアーの企画と実践 外国人観光客を対象とした観光ツアーは、どのように企画され、実施されているのでしょうか？外国人向けツアーを実施している旅行会社の方をお招きして実践的なお話をお伺いしながら、山梨において着地型ツアーを企画・実施する際のポイントや注意点などについて解説します。
第 9 回 第 10 回	11/5 (木) 12:00~15:10 【場所】石和温泉 君佳旅館 山梨学院大学 伊東洋晃准教授	■外国人モニターによるサービス向上のためのワークショップ 受講者の皆さんのホテル・旅館などの施設やサービスは、外国人観光客にどのように評価されているのでしょうか？ここでは、受講者の中からいくつかのモデル施設を選び、在日外国人モニターに、実際に施設のサービスを体験していただくことで、より具体的な施設やサービスの問題点を明らかにするとともに、今後の改善方策について考えます。
第 11 回 第 12 回	11/19 (木) 13:00~16:00 【場所】ベルクラシック甲府 ランドオペレーター 山梨県立大学 吉田 均 准教授	■公開講座（講演会・情報交流会） 観光ツアーを通じて外国人観光客を誘致するには、ランドオペレーターとのつながりが不可欠です。ここでは、我が国で活躍するランドオペレーターをお招きし、ツアーの企画から宿泊施設の選定方法やその際の評価ポイントなどについて、具体的にお話しいただきます。 さらに講座修了後、受講者とランドオペレーターとの個別の情報交換の場を設ける予定です（要予約）。
第 13 回 第 14 回	12/3 (木) 12:00~15:10 場所：山梨県立大学 外部講師 山梨県立大学 前澤哲爾 教授	■外国人観光客のおもてなしの実践（実習） 第9・10回のワークショップを踏まえ、実際に接客を行う従業員を対象としたおもてなしの実習を行います。それにより、国別の挨拶程度の簡単な会話や、各国の文化や習慣に配慮した接客方法などを身につけます。
第 15 回	12/17 (木) 13:00~16:00 【場所】山梨県立大学 全教員	■成果発表会・修了式 グループ毎に研究課題の成果についてプレゼンテーションを行います。

(2) インバウンド観光事業実践力養成講座（定員 20 名×3 回）

～サブタイトル：ガイドブックに載っていない新たな山梨の魅力の発見・発信～

受講期間：平成 21 年 7 月 30 日（木）～平成 21 年 12 月 17 日（木）

受講申し込み者数：30 名

本講座の目標は以下の通り：

- ・ 山梨県の観光資源（シーズ）とその魅力などを理解し、それらを活用しながら、インバウンド観光のニーズに対応した情報発信のためのノウハウを身につける。
- ・ 第 3 期では、現在、WEB サイトやブログサイト等による様々な情報発信を行っている方やそれに関心のある方、今後、多様な職種においてこうした情報発信を行ってみたいと考えている方などを対象として、本事業が管理運営する山梨の観光関連情報発信サイト「やまなし観光わいわいねっと」（<http://www.yy-net.org/>）を用いて、国内外に山梨の魅力を発信するためのノウハウを身につけることを目指す。

インバウンド観光事業実践力養成講座 概要

第 1 回	10:00～11:30	■ 山梨の観光における情報発信の現状と課題
	【講師】 財団法人やまなし観光推進機構 駒澤大学 青木茂樹 教授 山梨学院大学 伊東洋晃准教授	山梨における観光関連情報の収集や発信の方法について学ぶ上で、今日の山梨の観光を取り巻く状況や、事業者や自治体などの PR 戦略について解説するとともに、更なる観光客の招致に向けた情報発信の課題と、ブログなどを用いた個人による情報発信の可能性について解説します。 さらに、アフィリエイトなど、WEB を活用した情報発信により収入を得る新たなビジネスモデルなどについても紹介します。
第 2 回	12:30～14:30	■ 実習「やまなし観光わいわいねっと」の使い方
	WEB 講師 駒澤大学 青木茂樹 教授 山梨学院大学 伊東洋晃准教授	山梨における観光関連情報発信サイト「やまなし観光わいわいねっと」の基本構成やその使い方について解説します。本講座は実習形式として、受講者一人ひとりがパソコンを操作しながら、本サイト上に各自のブログサイトを作成していただきます。
第 3 回	14:40～16:00	■ 実習：魅力的な WEB コンテンツの作り方
	WEB 講師 駒澤大学 青木茂樹 教授 山梨学院大学 伊東洋晃准教授	第 2 回の基本操作に引き続き、魅力あるコンテンツの見つけ方や、WEB 上で数多くの読み手を引きつける情報発信の秘策などについて解説します。それを踏まえて、各受講者が事前に用意したコンテンツで、実際にブログの記事を書き込んでいただきます。
この期間、現地実習に参加したり受講者が独自に山梨県内各地を訪れて見つけた地域の魅力を、各自のブログサイトに公開していただきます。 また、他の受講者のブログサイトにコメントを書き込んでいただきます。		

第 4 回	13:00～16:00	■受講者のブログ発表・修了式
	山梨県立大学 前澤哲爾 教授	これまでの講義・実習等を通じて作成した受講者各自のブログ内容を発表していただき、その内容について、コンテンツの内容、表現力などから教員が講評を行います。 発表終了後、本講座の修了式において修了証を授与します。
	駒澤大学 青木茂樹 教授	
	山梨県立大学 吉田 均准教授	
	山梨学院大学 伊東洋晃准教授	

※第 4 回は、別途開講する予定の「インバウンド観光事業企画力養成講座」と同時開催です。

講座開催場所並びに開催日時

	コース A	コース B	コース C
第 1～3 回	平成 21 年 7 月 30 日（木） 10:00～16:00	平成 21 年 7 月 31 日（金） 10:00～16:00	平成 21 年 8 月 1 日（土） 10:00～16:00
	峡南高等学校	山梨学院大学	
第 4 回	平成 21 年 12 月 17 日（木） 13:00～16:00		
	山梨県立大学・飯田キャンパス・サテライト教室		

（3）現地実習の概要

実際に山梨県内外の観光地を訪れその魅力に触れることを通して、受講者自らが地域の魅力を体感できる機会を設けることを目的に、以下の現地実習を行った。

8/29（土）	コース1：日本の伝統食の魅力を探る
【場所】 昇仙峡周辺・ 甲府市、中央市 山梨学院短期大 学	山梨県におけるインバウンドに日本の食文化を紹介・提供することのできる人材育成を目標として、以下の1日実習を行います。 ・そばの麺打ち体験を通して日本独自の粉食文化・麺食文化並びに郷土食を学ぶ。 ・醤油工場見学を通し、日本の食文化を代表する和食の調味料である醤油の歴史、製造法や和食の伝統であるうま味の食文化を学ぶ。 各実習並びに移動時に関連内容の講義を行います。
費用	3,500 円（そば打ち体験(持ち帰り有)と昼食代等）
9/16（水）～ 9/17（木）	コース2：日本の伝統・文化に触れながら豊かな自然の恵みを楽しむ
【場所】 北杜市周辺 帝京学園短期大 学	山の幸・川の幸・水資源といった山梨県の豊かな自然がもたらす恵みについて、体験を通して理解していただきます。北杜市周辺の温泉を中心とした観光資源の体験学習や、山の幸である猪や鹿の肉の試食などを行います。また、日本の伝統的漁法であるもじり漁をただ一人継承している鍋田さんにおいていただき、もじり漁についての学習も行います。 ・もじり漁・山の幸・水にまつわる文化に関する講義 ・北杜市内の温泉巡り ・もじり漁について見学

	・鹿・猪などの山の幸を使用した食事体験
費用	1,000 円（山の幸試食代：別途宿泊費（10,000 円程度；希望者のみ）・食費・入浴費（1 箇所 700 円程度）等の実費がかかります）
9/7（月）～ 9/8（火）	コース3：現代の GEISYA, FUJIYAMA — “日本の新魅力” を探せ！
【場所】 東京都内 山梨学院大学	外国人旅行者にとっての“日本の新魅力”を探るべく、東京での外国人が集まる観光スポットや宿泊施設などを視察し、彼らの来日ニーズや目的、実際の印象や感想などを直接インタビューし、さらにそれら観光スポットや施設の提供者側の外国人観光客への対応や戦略などの調査を行います。また、新技術や新産業を創出する最先端のイノベーション拠点の視察を通じ、新時代の観光ビジネスの可能性を探ります。
費用	2,000 円（資料・調査用具等の実習費用：別途宿泊費・食費等の実費がかかります）
10/17（土）	コース4：山梨ワインの中身を知ろう
【場所】 勝沼周辺 山梨大学	山梨県の観光資源としてブドウ・ワインは非常に重要である。山梨県はワイン醸造では全国1位の生産量を長年にわたり維持し、ワイナリーが点在し、観光ルートとして十分な資質を備えています。そこで、山梨県のワインの特徴を良く理解し、説明できるようにする能力の獲得は、インバウンド観光を推進する上で不可欠です。 本コースでは、外国人への説明のための知識の獲得に重点を置き、世界的なワインの歴史、日本および山梨県のワインの歴史、日本固有品種である甲州種やマスカット・ベリーA種、ワイン醸造の方法の理解、英語におけるその表現などを学習することを目指します。
費用	2,000 円（食事代等）
10/1（木）～ 10/2（金）	コース5：身延山の歴史と文化を探るⅢ 身延山久遠寺における『お更衣式』と朝勤を体験する。
【場所】 身延山宿坊 身延山周辺 身延山大学	インバウンド観光に結びつく地域資源の情報収集や情報発信に関する能力、さらにそれらを活用した新たな観光サービス提供能力を身につけることを目指します。 身延山久遠寺周辺史跡を実際に訪れ、通り一遍の観光地としてではなく750有余年の歴史的、信仰の霊場としての身延山を肌で感じて欲しい。その体験より新たな身延山を観光資源としてのあり方を探り出す。 ・身延山久遠寺 法要参列 ・久遠寺諸堂見学 ・久遠寺朝勤参拝
費用	8,000 円（1泊2食）

（文責：前澤哲爾）

地域研究部門

1. 地域研究部門の事業概要

(1) プロジェクト研究事業

地域研究交流センターでは、地域が抱えるさまざまな課題の解決および地域文化の発掘・継承に向けて研究事業を実施しており、研究事業にはプロジェクト研究事業と共同研究事業がある。

今年度のプロジェクト研究は、以下の4本である。①と②は前年度までの研究成果を踏まえ、内容を深めたり、新たな課題に取り組む形で、研究活動を継続させることとなったものである。さらに、今年度から新たなプロジェクト研究として、③、④の2件に取り組むことになった。

- ① 大学と地域の連携による多文化共生の推進
- ② 「よつびし総研」プロジェクト 2009
- ③ 忍野村の地域課題と大学の地域貢献に関する研究
- ④ 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究

(2) 共同研究事業

共同研究事業は当センターが募集する、学内の教員や学外の研究者等による研究事業である。応募のあったものの中から、選考委員会（6月19日開催）によって以下の5つの研究が採択された。このうち③④は平成20年度に続き採択・実施された。

- ① 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
～甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発～
- ② 女性の日常生活と更年期の過ごし方をめぐる地域差の研究
～上野原市・甲府市の70歳以上の女性に関する実態調査～
- ③ 動作解析ソフトウェアによる解析画像を活用した介護動作教育モデルの開発
～「動作解析ソフトウェアを活用した介護・看護・リハビリ分野に共通する動作の分析Ⅲ」～
- ④ 山梨県産業金融史（戦前編）～企業家史的視点からの分析 2～
- ⑤ 国際観光客誘致のための外国語メニューの開発に関するビジネスモデルの研究

2. 地域研究部門からの情報発信と今後への展望

今年度は、新たに加わった2つのプロジェクト研究が地域課題の掘り起こしを開始させるなど、プロジェクト研究事業に大きな変化が見られた。この新たなプロジェクト研究はセンターのニューズレター9号に紹介された。また、20年度までの地域研究部門の研究事業についてはニューズレター10号で特集が組まれる等、地域貢献の成果を報告する機会となった。

センター研究事業は、平成17年度以降5年を経過した。この5年間で、本事業に1回以上参加した現職教員の割合は52.6%(60名)であった。教員は本事業の他にも数多くの研究活動を実践しており、この割合が多いか少ないかは判断の分かれるところである。今年度はセンター研究事業がニューズレター等で取り上げられ、より周知されたことから、今後はさらなる事業参加と地域貢献への活性化が図られることを期待したい。

1. センター・プロジェクト研究

(1) 大学と地域の連携による多文化共生の推進

① 研究目的

山梨県内に在住する多様な背景を持つ外国人住民の実態を把握し、適切な支援を行うためにこれまで複数年に渡って取り組んできたプロジェクト2つに新たな2つのプロジェクトを加え、地域における多文化共生推進に寄与する取り組みを実施する。

これまでに取り組んできたプロジェクトに関しては、大学の地域貢献としての位置付けを明確にするとともに発展的な展開を企図した。新たな2つのプロジェクトに関しては、担当する教員の専門領域を活かした基礎的な調査研究を行った。

② 研究内容

(A) 多文化共生に関わる学生の地域貢献活動とカリキュラムの統合に関する研究～山梨県立大学におけるサービ斯拉ーニングの構築に向けて～

本プロジェクトでは、3年に渡り ICT 技術を活用した遠隔日本語教育を地域企業・海外企業と繋いで実施してきた。このプロジェクトには本学教員・企業関係者のほかチューターとして学生が関与している。また、地域研究交流センターの学生優秀地域プロジェクトである「学習支援教室」は、地域在住の外国籍児童生徒の学習を5年に渡って実施している。学生の地域貢献活動を、カリキュラムと関連した教育活動の一環として実施するサービ斯拉ーニングは、近年大学教育においても注目されはじめているが、本学における取り組みを、多文化共生に関わる地域貢献活動を目的とした学士教育の枠組みの中に位置づけた。

(B) FM 甲府と提携した外国人住民向け多言語放送の制作

08年10月からFM甲府において、多言語放送「Hello! TAGENGO」の番組制作を行ってきた。この放送は、09年4月から30分番組に拡大し、多文化共生を進める上で、外国人住民への情報提供ツールの一つとして重要な情報基盤を形成しつつある。その実施に当たって本学の多くの学生が参画し、外国人住民、地域のボランティアのいわゆる「異文化コミュニケーション」の場となっている。

放送番組の企画、放送台本の作成、演出構成、取材・録音、編集などを県内在住外国人と協働して進めた。放送は毎日曜日、4月～9月午後1時～1時30分、10月～3月午前9時～9時30分である。第1週ポルトガル語、第2週中国語、第3週韓国語、第4週スペイン語の放送である。第5週がある場合は、日本語でこの番組に関する話題を紹介した。

(C) 外国人から見た山梨の魅力

自然や観光、生活環境、県政サービスなどを含めた山梨の魅力に対する外国人の認知度を把握することを目的とし、山梨県在住外国人100名を対象にアンケート調査を行った。アンケートは日本語、ポルトガル語、中国語、英語、スペイン語、韓国語の6ヶ国語で作成、調査は集団面接法と個別面接法を中心に行われ、極めて高い回収率（100%近く）と信頼度を達成した。アンケートでは、山梨の魅力について「全体」、「生活環境」、「自然・観光」の3部分計30項目に分けて質問し、また自由記述として山梨の魅力度を高めるには何が必要かなど

について意見やアイデアを書いてもらった。アンケートを集めた後、その分析を行った。

(D) 多文化共生における外国人医療・福祉に関する問題

グローバル化による多文化化は医療・福祉の分野にもさまざまな問題を招来しているが、多文化共生という視点で重要なことの一つに医療・福祉を「提供する側」が「受ける側」のニーズを把握しているかどうかがある。本プロジェクトは、このニーズを把握するため、県内に多い中国系住民と南米系住民（ペルー系）の2グループでフォーカスグループ(focus group)の手法を用いて、それぞれ通訳を介してインタビューを実施した。各グループ構成は通訳も含めて5名。結果は、音声データをもとに逐語録を作成、これをローデータとし補足データと共に質的機能的に分析した。

③担当者

安藤 淑子(代表、国際政策学部)、波木井 昇(国際政策学部)、前澤 哲爾(国際政策学部)、八代 一浩(国際政策学部)、張 兵(国際政策学部)、長坂 香織(看護学部)、百々 雅子(看護学部)

(文責：安藤 淑子)

(2) 「よつびし総研」プロジェクト2009～学生が主体的に運営する「四菱まちづくり総合研究室」(よつびし総研)による甲府中心市街地活性化事業～

① 研究目的

2007年4月14日、山梨県立大学の学生と教員の有志と共に、甲府中心街に「四菱まちづくり総合研究室」(よつびし総研)を設立した。そして、その「よつびし総研」を拠点として、甲府中心市街地の活性化事業等に取り組むという実践的研究を3年間継続してきた。その目的は、学生が地元の中心街活性化等に寄与するという形で地域・社会に貢献すること、およびその活動を通して学生が実践からしか学べない様々な経験やノウハウ、そして能力など様々な学習成果を得ることである。

② 研究内容

開所以来、「よつびし総研」プロジェクトは、全国の地域活性化の成功事例を参考にしつつも、山梨県や甲府の特殊事情を踏まえながら、顧問教員のアドバイスを得て、学生が臨機応変に様々な事業を展開するという手法、すなわち、学生が甲府中心市街地で主体的に「まちなか研究室(よつびし総研)」を運営し、下記の風林火山事業を実施するという手法で実践された。2009年度の主な活動内容は以下のとおりである。

風の事業(地域興し活動のコーディネート)として、「まち友無尽」(行政・大学・商工会議所・商店街・学生の5者連携懇談会)を新たに企画・実施した。これまで、甲府中心街のまちづくりにおいて、行政・大学・商工会議所・商店街・学生は個別的には連携していたが、総合的かつ有機的には連携していなかった。そこで一堂に会して懇談する機会を設け、学生が触媒となって、この5者を連携させて、新たなまちづくりの発想や手法、そして取り組みを呼び起こそうというのがこの「まち友無尽」である。

林の事業(催し物のプロデュース活動)として、毎年恒例となった「ゆかた祭(第3回)」

や「キャンドル祭（エコ企画＋夏祭り、第2回）」などを実施した。

火の事業（よつびし総研の活動情報や地域のイベント情報の発信などの広報活動）として、ブログやホームページによる情報発信、第23回自治体学会・福井大会でのポスターセッションなどを実施した。

山の事業（学生が独自の視点で実施する調査・研究活動）として、「甲府・都市空間調査2009」、「ガチンコジウムⅣ 学生と商店主とで考える甲府中心街の行方ーよつびし総研3年間の活動を踏まえてー」などを実施した。

2009度の研究の特徴としては、過去2年間様々なオファーに快く対応するあまり、「よつびし総研」が「イベント屋」、「ご用聞き」と誤解されがちであったことを反省し、イベント等は中心街にとっても、そこ住む人にとっても、そして学生にとっても意味のある、後々に繋がる活動に絞り込んだことである。そのうえで、研究プロジェクト・チームを編成して、調査研究に力を注いだ。例えば、昨年度から継続した「甲府・都市空間調査2009」や「ビシラン・ガイド作成プロジェクト」（学生が中心街のお店を独自に調査して、最高「四つ菱◆◆◆◆」で評価・公表する）、「商店主ヒアリング調査」などである。さらに、伊藤洋学長や宇野善昌甲府市副市長に参与（特別顧問）として参加していただいたことも昨年度とは異なる点である。来年度も調査研究に重点をおいて本プロジェクトを遂行していきたいと考えている。

③ 担当者

代 表 者： 熊谷隆一（国際政策学部）

共同研究者： 小沢典夫・前澤哲爾・吉田均・安藤淑子・箕浦一哉・安達義通・二宮浩輔（以上、国際政策学部）、高野牧子（人間福祉学部）、伊東洋晃（山梨学院大学現代ビジネス学部）、青木茂樹（駒澤大学経営学部）、石井信行（山梨大学）

（文責：熊谷 隆一）

（3）忍野村の地域課題と大学の地域貢献に関する研究

① 研究目的

09年3月10日、「忍野村と県立大学との包括連携協定」締結を受け、地域課題の把握と解決に向けて大学がなしうる取り組みについて研究する。

② 研究内容

7月7日、忍野村役場において、「包括連携協定推進委員会」が発足し、第1回会議を行った。「委員会」は全体の承認委員会とし、次回は来年1月に開催する。委員長は前澤哲爾山梨県立大学教授、副委員長は天野明弘忍野村総務課長となった。忍野村からは各課長やスタッフなど18名、大学側から教員5名、学生5名が参加し、村からは、各担当者からそれぞれの課題などが出され、検討を行った。

その結果、4つのテーマを設定して、分科会として活動することとなった。本年中に、少なくとも1回ずつ、テーマミーティングを忍野村で開催し、具体的な地域課題を把握、分析すると共に、その解決に向けた来年度の活動計画を立案する。また同時に、その活動のた

めの来年度予算措置を講じることとなった。

テーマとしては、「環境」（小沢典夫教授）、「景観」（箕浦一哉准教授）、「教育」（前澤哲爾教授）、「健康」（村松照美教授）を当面担当とし、大学教員・学生、村職員、村民の参加を得て、その課題について研究、検討する。

2010年3月までに、それらの記録や各種調査、関係資料をまとめ、報告書として取りまとめた。

○ 研究会等の開催状況

7月7日（火）19：30～21：30 包括連携協定推進委員会 第1回会議（忍野村役場）

11月1日（日）14：00～16：00 「環境部会」第1回会議（忍野村役場）

2月～3月に「景観」「教育」「健康」各部会会議を開催予定。

「環境部会」と連動する活動として、「忍野村ホトケドジョウ復活プロジェクト協議会」が、地元の NP0 法人富士おしの名水倶楽部が主催して、4月26日、11月1日、1月31日4回の会議が開催され、また現場視察などが行われた。

③ 担当者

前澤 哲爾（代 表：国際政策学部）

小沢 典夫、箕浦 一哉、安達 義通（国際政策学部）

村松 照美（看護学部）

大塚 ゆかり（人間福祉学部）

（文責：前澤 哲爾）

（４）青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究

① 研究目的

県内の生徒や学生に、次のような力を育てたいというビジョンをもって、「自殺予防教育」を推進するプロジェクト研究を立ち上げた。

- a. 深く悩んだ時には周りの友人や教師、大人に相談することができる。
- b. 身近な友人の「いつもと違う」に気づいた時には声をかけることができる。
- c. 友人からの深刻な相談にはじっくり耳を傾けることができる。
- d. 自分の力を超える相談には周りの大人やいのちのセーフティネットにつなぐことができる。

これらのビジョンを叶えるために、研究期間を4年と考えている。各年度のゴールは次の通りである。

2009 年度：青少年の自殺の実態、青少年の自殺防止対策の現状と課題を公文書や文献より検討等

2010 年度：代表者やメンバーが実施する自殺予防に関連する授業の公開、県内の中学・高校・大学を対象に「自殺予防教育」実施に関するニーズ調査の実施等

2011 年度：教師が生徒や学生に実施する「自殺予防教育」プログラムの検討

2012 年度：中学・高校・大学への「自殺予防教育」推進の実践活動

本プロジェクト研究を通して、近い将来、「自殺予防教育」を県内全ての教育機関で実施することが当たり前となり、次世代を担う青少年一人ひとりが「いのち」を大切にする大人に成長すること願っている。

② 研究内容（初年度であり研究活動の概要を掲載した。詳細は研究報告書を参照のこと）

1. 研究会の開催・活動内容

- | | | |
|--------|----------------|--|
| 第1回研究会 | 平成21年 6月18日(木) | ・プロジェクト研究のビジョン、ゴールの検討 |
| 第2回研究会 | 平成21年 7月13日(月) | ・プロジェクト研究のビジョン、ゴールの決定
・上越教育大学地域貢献フォーラム参加の報告 |
| 第3回研究会 | 平成21年 8月 6日(木) | ・A大学生「心の健康度自己評価票」の集計結果報告
・B高校生に対する自殺予防に関連した授業報告 |
| 第4回研究会 | 平成21年 9月24日(木) | ・山梨県高齢者の自殺動向に関する解析報告 |
| 第5回研究会 | 平成21年11月12日(木) | ・B高校生、A大学生に対する自殺予防関連授業報告
・自殺認識テストのA大学生とB高校生の比較報告 |
| 第6回研究会 | 平成21年12月17日(木) | ・平成21年版自殺対策白書の子どもの自殺報告の検討
・中学生、高校生、大学生の自殺の実態把握の検討 |
| 第7回研究会 | 平成22年 1月28日(木) | ・第31回全国大学メンタルヘルス研究会参加報告
・研究報告書の構成・役割分担の検討 |
| 第8回研究会 | 平成22年 3月 1日(月) | ・研究報告書原稿の意見交換と次年度の課題の検討 |

2. 参加した学会や研修会等

- 1) 上越教育大学地域貢献フォーラム…平成21年 7月4日(土) 9:00～12:30
・テーマ:「生きがい感を高める教育とは」
- 2) 第31回全国大学メンタルヘルス研究会…平成22年1月21日(木)～22日(金)
・シンポジウムのテーマ:「大学生の自殺予防」
- 3) 第2回思春期ワークショップ…平成22年2月28日(日)13:30～16:30
・テーマ:「子どもの『死にたい』にどう応えるか」支援者のための自殺予防プログラム

3. 青少年を対象とした自殺予防に関連した教育活動

- 1) A大学生に対する「生活と健康」における教育の実践
- 2) A大学生に対する「精神保健論」における教育の実践
- 3) B高校生に対する「家庭看護と福祉」における教育の実践 (1) (2)

③ 担当者

清水 恵子（代表：看護学部） 小田切 陽一（看護学部） 坂本 玲子（人間福祉学部）
大塚ゆかり（人間福祉学部） 末木恵子（保健室） 市川敏美（山梨県精神保健福祉センター）
(文責：清水 恵子)

2. センター・共同研究

(1) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について－甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発

① 研究目的

本研究の目的は、山梨県の地域資源である「甲斐絹」を伝承するための教育プログラムを開発すること、及び地域あるいは国内の様々なビジネス展開、商品開発、国内外への発信方法を調査・分析し、「甲斐絹」のビジネス展開の可能性を検討することである。

② 研究内容

平成 21 年 7 月～平成 22 年 3 月までに 5 回の研究会を開催した。この内、第 3 回、第 4 回研究会は、宇都宮共和大学、松本晃子氏、杉野服飾大学、織田晃氏を講師に招き、地域ブランドと商品開発、及び流行とブランドについての講演会として実施した。

平成 22 年、1 月 13 日、20 日には、山梨大学附属中学において「甲斐絹」を題材とする研究授業を行った。研究授業の内容は甲斐絹座メンバーによる甲斐絹についての講義、及び甲斐絹を使っの小物製作である。授業の対象は 3 年 2 組 40 名、授業担当は同中学、赤岡玲子教諭である。また、本授業の題材と甲斐絹小物販売検討のための、小物製作（ティッシュケースカバー、シュシュ、ポーチ、コースター等）を行った。

平成 22 年 2 月～3 月に於いて、山梨県富士工業技術センター保存の甲斐絹見学、甲斐絹関連工場見学を実施するとともに、他県におけるシルクに関わる実態調査を行う。

③ 担当者

斉藤 秀子（代表者、人間福祉学部）波木井 昇、安達 義通（国際政策学部総合政策学科）志村 結美（山梨大学教育人間科学部）内藤 裕利、古屋 万恵（山梨県商工労働部産業支援課）五十嵐 哲也、渡辺 誠（山梨県富士工業技術センター）前田 一郎、山崎 泰洋、槇田 則夫、田辺 丈人（甲斐絹座）

（文責：斉藤 秀子）

(2) 女性の日常生活と更年期の過ごし方をめぐる地域差の研究

－上野原市・甲府市の 70 歳以上の女性に関する実態調査－

① 研究目的

本研究の目的は、上野原市・甲府市の 70 歳以上の女性の日常生活と更年期の過ごし方の実態を知り 2 市の地域差を比較しながら、それぞれの地域が持っている生活の仕方の特徴を描写する。

② 研究内容

平成 18 年度と 19 年度の 2 回、「女性の日常生活と更年期の過ごし方」のテーマで上野原市・甲府市の 2 箇所ので二世帯の女性達 70 名を無作為に抽出し、ライフコースと、特に更年期の日常生活の過ごし方や生活スタイルについて David L.Morgan のフォーカスグループディスカッションを用いて調査研究を行った。データ分析の結果 1) 世代間差がある、2) 個人レベルで、世代を重ねて継承できるものとできないもの、3) 社会レベルで、世代を越えて変化するものと変化し

ないものがあるの3点が示され、最終的に「変化するもの」のキーワードとして“医療化”、“食生活”、“モータリゼーション”が、「変化しないもの」では“関係性”、“絆”、“家庭と家族”、“連帯”が抽出された。平成21年度はこの語りのローデータから「女性のライフコースと、特に更年期の日常生活の過ごし方」のコンセプトを基に調査票を作成し上野原市と甲府市で生活している70歳以上の女性、各150名に研究の倫理的配慮の手続きを経て無記名自記式調査用紙を用いて集合調査を実施した。データは統計ソフトSPSSを用いて分析した。

これらの研究については、成果報告書で詳細を報告する。また論文として雑誌、学会誌に発表していく一方で、日常生活への実践的な反映として地域の生活クラブ研究会でフィールドへのアカデミックツアーのコーディネートを実施する予定である。

③ 担当者

滝沢 美津子（代表 看護学部）、百々 雅子（看護学部）、萩原 結花（看護学部）
池田 智子（上野原市保健師）、白鳥 恵美子（上野原市保健師）

（文責：滝沢 美津子）

（3）「動作解析ソフトウェアによる解析画像を活用した介護動作教育モデルの開発」 ～「動作解析ソフトウェアを活用した介護・看護・リハビリテーション分野に 共通する動作の分析Ⅲ」～

① 研究目的

本研究の目的は、「動作解析ソフトウェアを用いた介護・看護・リハビリ分野の技術教育方法の検討」を行うことである。平成19年度に採択されたセンター共同研究からスタートし、本年度はこれまでに蓄積してきた研究成果を元に、蓄積した動作解析画像を移乗動作介助の技術教育に応用するための方法について検討し、教育モデルを作成した。

② 研究内容

- (A) 対象動作の選定
- (B) 演習授業案原案を作成（看護・介護分野で各1校分 90分×1回分程度）
- (C) 昨年度までの収集データのなかから教育効果の高い解析画像の選定
- (D) 模擬演習授業の実施と評価、改善点の抽出（教育に用いる画像のチェック等）
- (E) 追加撮影、動作解析処理の実施
- (F) 教材用DVDおよび技術教育演習授業の手引き（撮影プロトコル等含む）の作成

③ 担当者

伊藤 健次（代表、人間福祉学部）・小林 美雪（看護学部）・森川 三郎・浅川 歩（甲府看護専門学校）仲沢 富枝・小俣 たか子（帝京山梨看護専門学校）・小川 純（身延山大学）・杉山 由香里（目白大学）渡辺 邦夫（帝京医療福祉専門学校）・武内 博昭・飯野 みどり・功刀 仁子（優和福祉専門学校）

（文責：伊藤 健次）

(4) 山梨県産業金融史（戦前編2）

① 研究目的

本研究の目的は、戦前期山梨県の産業企業家の活動を支えた資金的背景及び山梨県における金融構造を明らかにするとともに、他地域（他県）との関連および比較を含めてより詳細に検討することである。

② 研究内容

今年度は、戦前期山梨県における地主経営を中心とする金融の流れ、地主小作関係と小作米流通を焦点としたブラックボックスの中身の解明に力点を置いた。また、昨年に引き続き、県内「百年企業」を中心とした発掘と経営実態の分析を行った。

具体的には、黒羽が若尾家の地主経営について「若尾地所部決算報告書」「若尾保全営業報告書」「若尾銀行営業報告書」を利用し、Household Finance 的アプローチからの、経営実態の解明に取り組んだ。島袋は、長野県について、『長野県史資料編』および『信濃毎日新聞』を利用した長野県における小作料調整システムを明らかにし、山梨県のシステムとの比較研究を行った。長谷川は、県内「百年企業」の経営の特徴とそれらの他県における「百年企業」との比較を中心に、企業家史的視角から分析を試みた。

これらの研究成果は、今年度成果報告書所載論文・研究ノートとして収録される。

③ 担当者

黒羽 雅子 （代表 国際政策学部総合政策学科）

長谷川 直哉 （山梨大学工学部准教授）

島袋 善弘 （本学名誉教授）

（文責：黒羽 雅子）

(5) 国際観光客誘致のための外国語メニューの開発に関するビジネスモデルの研究

① 研究目的

本研究の目的は、2008年に締結した「甲府商工会議所との包括的連携に関する協定」に基づき、本学および山梨学院大学・甲府商工会議所との同研究チームを編成し、多言語（日、英、中）でのモデルメニューを作成することにある。以って、甲府中心商店街などでの外国人観光客向けの集客ツールを作成し、山梨県への外国人観光客の誘致促進のための体制づくりに寄与することにある。

② 研究内容

多言語（日、英、中）でのモデルメニューとその付属資料を、同会議所が推薦する実験協力店（銀座江戸家・若鮎）で研究し作成した。本年1月銀座江戸家を対象に、英語と中国語の2ヶ国語表記で、メニュー名のみ日本語も記載した、多言語メニューが完成した。メニュー名のみ日本語とした理由は、店員が外国語をわからない場合、日本語がないと注文の確認ができなくなるためである。

このメニューの特徴は、独自に開発したユニバーサルデザイン（UDと略）のピクトグラム（絵記号）にある。このUDピクトグラムは、単なる成分表示ではなく、アレルギー

や宗教的禁忌のある食材を表示している。さらにメニュー以外の資料として、1) ホテルからの誘導用中国語版チラシ、2) 銀座江戸家の店内案内図、3) 郷土料理の説明など、計5種類の付属資料を作成している。

そして現在は、本年5月を目処に若鮎で新しいタイプのバイリンガルメニューを開発している。今回は世界中のお鮎屋さんのメニューを参照しながら、同店の日本語のメニューをベースとして翻訳作業に入っている。また別冊では、そのメニューを媒介に会話が生まれるもの、日本や海外の鮎文化を伝えられるものを研究中である。

なお本研究は、日本経済新聞、山梨日日新聞、YBSテレビなどで度々報道されたほか、次の学会で研究報告を行った。山梨県インバンド観光支援学生グループ（猪股あさみ、塩崎亜沙美、ほか43名）、（2009年11月22日）「国際観光におけるユニバーサルデザインの利用可能性—大学生の参加型学習を通じた事例研究—」『北東アジア学会 2009年度学術大会』、北東アジア学会。

③ 担当者

吉田 均（代表者：国際政策学部准教授）、伊東 洋晃（代表者：山梨学院大学現代ビジネス学部准教授）小林 明（甲府商工会議所地域振興部部長）、杉田 季久（同主事）。このほか学生スタッフとして、伊藤 瞳（山梨県立大学国際政策学部3年）、稲葉 恵理（同2年）をグループリーダーに、ほか20名の学生が参加している。

（文責：吉田 均）

教育改善・開発部門

1. 教育改善・開発部門の事業概要

教育改善・開発部門はこれまで、大学全体としての教育力向上を目的とする FD・SD 活動の中核を担う組織としての役割を果たしてきたが、平成 20 年度に「全学 FD 委員会」が新設され、これまで部門が担当してきた業務の多くが移管されることとなった。平成 21 年度は、まさにこうした移行期における事業展開を迫られる状況となったが、部門（部会）が中心となり、あるいは全学 FD 委員会活動に関与する中で、下記（1）～（5）の事業に取り組んできた。

- （1） 学生による授業評価の実施
- （2） 「教育評価・改善部会」平成 20 年度報告書の編集・刊行（平成 22 年 2 月）
- （3） 各学部・学科における授業公開の取り組み
- （4） 全学 FD・SD 研修会の開催
- （5） 教育 GP 申請

2. 事業の移管状況について

教育改善・開発部門が中心となって取り組んできた FD・SD 活動に関わる業務は、設置 2 年目を迎えた「全学 FD 委員会」が事業主体となり企画・運営・実施する体制がほぼ整えられた。平成 22 年度以降は、センター事業として「教育評価・改善部会」によって行われてきた「学生による授業評価」の実施については全学 FD 委員会に、プログラム開発部会の教養教育開発に関わる業務に関しては全学教養教育運営委員会に、それぞれ移管されることがすでに決定されている。こうした業務移管により、地域研究交流センターは教育改善・開発部門の所掌事項の内「GP 開発」のみを所轄することとなった。

したがって、教育改善・開発部門としての事業報告についても、今回が最終稿となる。開学以来 4 年間にわたり部門長を務められ、本学の FD・SD 活動の礎を築かれた堀井啓幸先生をはじめ、ご尽力いただいた先生方に敬意を表し、心より厚く感謝を申し上げる次第である。

1. 学生による授業評価の実施

平成 21 年度授業評価実施に関わる活動経過一覧

月日	活動内容
5/14	第 1 回全学 FD 委員会 ○平成 21 年度授業評価アンケートの実施案について提案
5/21	第 2 回全学 FD 委員会 ○平成 21 年度授業評価アンケートの流れ・経費について提案
7/1	第 1 回教育評価・改善部会 ○各学部における授業評価実施・協力体制についての確認 ○授業評価実施過程における確認事項 ○事前配信資料についての審議
7/13	前期授業評価開始（～8/7 まで）
7/16	第 3 回全学 FD 委員会 ○前期授業評価結果の処理および後期授業評価について提案
9/29	第 2 回教育評価・改善部会 ○前期授業評価の反省 ○後期授業評価対象科目一覧表の作成手順についての確認 ○後期授業評価実施スケジュールについての審議
10/1	第 4 回全学 FD 委員会 ○前期授業評価結果について報告
11/12	第 6 回全学 FD 委員会 ○前期授業評価総括の依頼
12/8	第 3 回教育評価・改善部会 ○各学部における授業評価実施・協力体制についての確認 ○授業評価実施過程における確認事項 ○授業評価「質問項目」の修正についての審議
12/22	第 7 回全学 FD 委員会 ○学生による前期授業評価結果及び教員の自己評価に対する総括 ○改善方針の検討
1/12	後期授業評価開始（～2/5 まで）
1/22	第 8 回全学 FD 委員会 ○授業評価関連資料の保管方法について確認 ○授業評価質問項目（Q4）の修正について提案
3/12 (予定)	第 9 回全学 FD 委員会 ○後期授業評価結果について報告

平成 19 年度後期から導入された「オンライン授業評価システム」においては、全対象科目の平均回答率が 29%にとどまり、授業評価結果を示す数値データの信頼性に対する問題点が指摘されることとなった。そこで本年度より、業者委託のマークシート方式による調査方法・評価結果の集計処理により実施する体制が導入され、回答率（前期）は 84.5%に上昇し、今後の授業改善に活用し得る資料と位置づけることが可能となった。また、学部長・研究科長・全学教養教育運営委員長・教職課程委員会委員長が総括を行い、その内容を全学 FD 委員会において報告・審議するというシステムが確立され、これまで「科目群」

としての評価を具体的改善に結びつける組織形態を持たなかった「教養科目」「教職課程科目」についても、改善に向けての組織的体制が整備された。

2. 「教育評価・改善部会」平成 20 年度報告書の編集・刊行

平成 20 年度の「FD・SD 研修会」「授業評価」「全学 FD 委員会」の事業概要について、下記内容について全 82 ページにわたる報告を行った。

第 1 部	「平成 20 年度 FD (SD) 研修会
第 1 章	研修会の趣旨・進藤聡彦先生ご紹介
第 2 章	講演記録
第 3 章	FD・SD 研修会派遣記録・報告
第 2 部	「平成 20 年度授業評価」
第 4 章	平成 20 年度授業評価とこれまで
第 5 章	授業評価活動に対する学生の意見
第 6 章	授業評価アンケート数値評価まとめ・よい授業
第 7 章	学部長による総括
第 3 部	「全学 FD 委員会」
第 8 章	平成 20 年度全学 FD 委員会まとめ
第 4 部	「資料編」

3. その他の事業

その他、部門が関与して取り組んできた事業に関わる活動状況は下記通りである。

1) 各学部・学科における授業公開の取り組み

各学部の FD 委員会が中心となって授業改善のための授業公開の取り組みが行われた。具体的な成果に関しては『平成 21 年度 FD 活動報告書』（全学 FD 委員会編）にて、報告が行われる予定となっている。

2) 全学 FD・SD 研修会の開催

全学 FD 委員会の主催により、京都大学高等教育研究開発推進センターの大塚雄作教授を講師として招聘し、研修会が開催された。詳細な講演記録については『平成 21 年度 FD 活動報告書』（全学 FD 委員会編）を参照のこと。

3) 教育 GP 申請

平成 20～22 年度「質の高い大学推進プログラム（教育 GP）」に採択された「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト」が看護学部・人間福祉学部を中心として進行している状況の中で、平成 21 年度新規 GP の申請は特に該当がなかった。

（文責：杉田由仁）

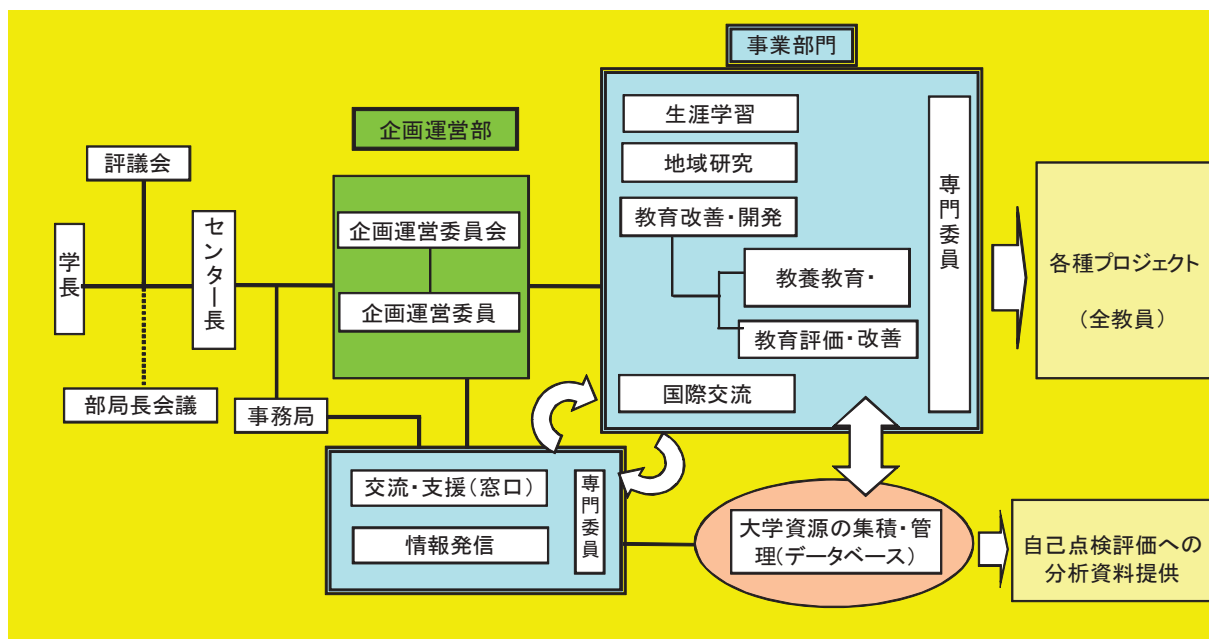
事務局

1. 企画運営委員会記録

1. 第1回 平成21年4月21日（火）
主な協議事項：委員の配置等の検討について
2. 第2回 平成21年5月15日（火）
主な協議事項：委員の配置等について／プロジェクト研究の公募・プロジェクト研究テーマについて
3. 第3回 平成21年6月2日（火）
主な協議事項：各部門からの事業計画と予算説明／共同研究の公募状況
4. 第4回 平成21年6月23日（火）
主な協議事項：プロジェクト研究の実施・共同研究の選定結果等／センター発行紙「ニューズレター」の掲載内容等
5. 第5回 平成21年7月14日（火）
主な協議事項：忍野村との包括協定の締結等／平成22年度予算要望
6. 第6回 平成21年8月4日（火）
主な協議事項：教員の地域貢献活動の支援／後期からのセンター室での執務体制
7. 第7回 平成21年10月7日（火）
主な協議事項：甲府市との包括連携協定の締結等
8. 第8回 平成21年10月27日（火）
主な協議事項：自己評価委員会からの作業協力依頼等
9. 第9回 平成21年11月17日（火）
主な協議事項：生涯学習における遠隔学習システムの導入等／中期計画策定に係るセンター関連事項の検討
10. 第10回 平成21年12月8日（火）
主な協議事項：教育改善部門と全学FD委員会等の業務調整／法人化に伴うセンター関係諸規定の整備
11. 第11回 平成22年1月5日（火）
主な協議事項：教育改善部門の業務に係る他機関への移管／県立科学館との連携協定書（案）の検討
12. 第12回 平成22年1月26日（火）
主な協議事項：学生優秀プロジェクトの選考結果／甲府市と県立大学との包括連携協定書（案）の検討
13. 第13回 平成22年2月16日（火）
主な協議事項：センター組織部門の見直し等
14. 第14回 平成22年3月9日（火）
主な協議事項：周辺自治会との情報交換会／春期総合講座／センター関連規定見直し
15. 第15回 平成22年3月30日（火）（予定）

2. 組織図・委員名簿

(1) 組織図



(2) 委員名簿

		総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学科	人間形成学科	看護学科
地域研究交流センター 企画運営委員会		波木井 安達 箕浦	前澤 安藤	神山 川池 大塚	堀井	清水 小林(た) 杉田
事業部門 (専門委員)	交流・支援	○箕浦	吉田(均)	◎川池 柳田		小林(た) 渡邊(裕) 泉宗
	情報発信	◎箕浦	山本	○大塚	池田(充)	森本 大久保
	生涯学習	熊谷	◎安藤 ○前澤	神山	山田	杉田 平田 郷
	地域研究	○安達	張	大塚		◎清水 五味
	(企画運営委員全員)					
	教育改善・開発	◎流石				
	教育評価・改善	二宮		畑本	堀井	○杉田
	プログラム開発	教養教育開発	安達 箕浦	伊藤(ゆ)	藤谷	○池田(政) 長坂
		GP開発	波木井 安達	○前澤 安藤	池田(充)	石田 田中 佐藤 野澤 河野 吉澤
	国際交流	未設置(暫定窓口:学生部・国際交流委員会)				
特別担当	看護・福祉専門職支援コーディネーター			◇伊藤(健)		◆小林(た) 渡辺(ゆ) 泉宗

企画運営委員は専門委員を兼務 ◎部門長 ○副部門長 ◇リーダー ◆サブリーダー

下線 企画運営委員以外の専門委員 ※教務委員長、教養教育運営委員長、※※HP担当

() : 申請経験者、必用に応じ出席

3. 地域研究交流センター委員一覧

(企画運営委員 ※)

学部	学科	氏名	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	波木井昇*	国際金融・国際経済
		安達義通*	地域振興
		箕浦一哉*	環境社会学
		熊谷隆一	地方行政・地方財政
		二宮浩輔	環境経済・政策
	国際コミュニケーション学科	前澤哲爾*	メディア論(映像)
		安藤淑子*	日本語教育
		山本武信	国際ジャーナリズム・ヨーロッパ
		伊藤ゆかり	アメリカ演劇・戯曲
		張兵	中国史・中国経済・アジア事情
		吉田均	国際開発・国際協力
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	神山裕美*	社会福祉(社会福祉援助技術)
		川池智子*	児童福祉・障害者福祉
		大塚ゆかり*	精神保健福祉
		藤谷秀	倫理学・哲学
		畑本裕介	社会保障論
		柳田正明	知的障害者福祉・地域生活支援
		伊藤健次	社会福祉(介護技術)
	人間形成学科	堀井啓幸*	教育学(学校経営)
		池田政子	心理学・ジェンダー問題
		山田千明	幼児教育学・多文化保育
		池田充裕	教育学(比較教育)
看護学部	看護学科	清水恵子*	精神看護学
		小林たつ子*	基礎看護学
		杉田由仁*	外国語
		佐藤悦子	地域看護学
		流石ゆり子	老年看護学
		石田貞代	母性看護学
		田中	看護管理学
		長坂香織	外国語
		五味千帆	基礎看護学
		森本美智子	基礎看護学
		渡邊裕子	老年看護学
		泉宗美恵	地域看護学
		大久保ひろ美	小児看護学
		平田良江	母性看護学
		郷洋子	地域看護学
		河野由乃	老年看護学
		吉澤千登勢	看護教育学
		野澤由美	精神看護学

資料1. 年間の時系列記録

月日	事業・行事名	部門名
2009年4月5日	多言語放送「Hello! TAGENGO」30分番組放送開始	地域研究
2009年4月5日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年4月13日	よつびし総研・第1回戦略会議(学生および教員代表者委員会)、毎月開催(以降省略)	地域研究
2009年4月14日	フレッシュマンセミナーでよつびし総研紹介プレゼン実施	地域研究
2009年4月19日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年4月25日	よつびし総研・新入生向けフレッシュマン・フットパス(甲府中心街ガイドツアー)を開催	地域研究
2009年4月27日	よつびし総研・第1回戦術会議(直近の活動報告および方針の確認)、毎週開催(以降省略)	地域研究
2009年5月6日	外国語メニュー第1案、銀座江戸家贈呈式	地域研究
2009年5月6日	外国語メニュー第1案、記者発表	地域研究
2009年5月9日	よつびし総研・開所2周年記念式典を開催	地域研究
2009年5月10日	多文化共生パーティ開催(甲府市)	地域研究
2009年5月10日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年5月17日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年5月20日	ことぶき勸学院学生と福祉コミュニティ学科学生との交流会	交流・支援
2009年5月23日	春期総合講座第1回	生涯学習部門
2009年5月25日	共同研究申請のための会議 昨年度実施内容振り返り・評価 -動作解析研究-	地域研究
2009年5月26日 ～2010年1月19日	山梨県立甲府城西高校への出前連携授業「家庭看護・福祉」 の実施	交流・支援
2009年5月30日	山梨市オーチャードヴィレッジ・フフ視察	地域研究
2009年5月30日	春期総合講座第2回	生涯学習部門
2009年6月6日	新歓合宿の開催(ウッドヴィレッジ伊那ヶ湖にて)	地域研究
2009年6月6日	春期総合講座第3回	生涯学習部門
2009年6月6日	ことぶき勸学院学生と看護学部学生との交流会	交流・支援
2009年6月7日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年6月12日	子育て支援コーディネーター養成講座第1回	生涯学習部門

2009年6月17日	商工会議所理財部会でよつびし総研プロジェクトを紹介(講演)	地域研究
2009年6月20日	「カウンセリング入門」研修会第1回	生涯学習部門
2009年6月21日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年6月22日	第1回まち友無尽(行政・大学・商工会議所・商店街・学生5者連携)を開催	地域研究
2009年6月26日	社会人・大学生のためのキャリアアップ講座1 第1回	生涯学習部門
2009年6月29日	インバウンド観光講座第1回	生涯学習部門
2009年6月29日	インバウンド観光講座第2回	生涯学習部門
2009年7月1日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児)第1回	生涯学習部門
2009年7月3日	社会人・大学生のためのキャリアアップ講座1 第2回	生涯学習部門
2009年7月5日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年7月7日	忍野村との連携協定に基づく全体会議(忍野村)	地域研究
2009年7月8日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児)第2回	生涯学習部門
2009年7月10日	子育て支援コーディネーター養成講座第2回	生涯学習部門
2009年7月10日	社会人・大学生のためのキャリアアップ講座1 第3回	生涯学習部門
2009年7月10日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児未満)第1回	生涯学習部門
2009年7月11日	よつびし総研プレゼンツ第3回ゆかた祭りを開催	地域研究
2009年7月13日	インバウンド観光講座第3回	生涯学習部門
2009年7月13日	インバウンド観光講座第4回	生涯学習部門
2009年7月17日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児未満)第1回	生涯学習部門
2009年7月18日	研究会参加:「外国人ケアワーカーの現在と私たちの将来」(東京外国語大学 多言語・多文化センター)	地域研究
2009年7月18日	「カウンセリング入門」研修会第2回	生涯学習部門
2009年7月19日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年7月24日	甲斐絹プロジェクト 第1回研究会(平成21年度活動内容、第2回研究会について)	地域研究
2009年7月25～26日	山梨市牧丘町オーチャートヴィレッジでの「夏祭り」を協賛	地域研究
2009年7月26日	第1回ホトケドジョウ復活プロジェクト協議会(忍野村)	地域研究
2009年7月27日	インバウンド観光講座第6回	生涯学習部門
2009年7月27日	インバウンド観光講座第7回	生涯学習部門

2009年7月30日	今年度実施内容の確認・役割分担のための会議-動作解析研究-	地域研究
2009年7月31日	子育て支援コーディネーター養成講座第3回	生涯学習部門
2009年8月2日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年8月3日	甲斐絹プロジェクト 第2回研究会(第3回研究会、研究授業について)	地域研究
2009年8月3日	男女共同参画講座第1回	生涯学習部門
2009年8月7日	「カウンセリング入門」研修会第3回	生涯学習部門
2009年8月8日	第2回キャンドル祭り(エコ企画+夏祭り)を中心街で開催	地域研究
2009年8月9～13日	韓国の国際観光都市・釜山視察旅行を実施	地域研究
2009年8月16日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年8月19～22日	自治体学会・福井大会においてよつびし総研プロジェクト紹介のポスターセッションを実施	地域研究
2009年8月25～26日	夏合宿(横浜市のまちづくり<港の見える丘地区&関内&MM21地区>を視察)	地域研究
2009年8月28日	子育て支援コーディネーター養成講座第4回	生涯学習部門
2009年8月29日	生活クラブ生協東京 食と生活スタディツアー	地域研究
2009年8月31日	第2回まち友無尽(行政・大学・商工会議所・商店街・学生5者連携)を開催	地域研究
2009年9月1日	甲斐絹プロジェクト 第3回研究会(講師 宇都宮共和大学 松本晃子氏 テーマ「地域ブランドと商品開発」)	地域研究
2009年9月6日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年9月7日	多文化共生会議開催(甲府市)	地域研究
2009年9月8日	第1回商店主ヒアリング(三枝豆店)を実施	地域研究
2009年9月10日	地域研究交流センターニューズレターVol.9発行	情報発信
2009年9月11日	子育て支援コーディネーター養成講座第5回	生涯学習部門
2009年9月11日	男女共同参画講座第2回	生涯学習部門
2009年9月17日	ピタゴラス山梨校校長永井ミリアン氏聞き取り調査	地域研究
2009年9月20日	第2回ホトケドジョウ復活プロジェクト協議会(忍野村)	地域研究
2009年9月20日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年9月24日	男女共同参画講座第3回	生涯学習部門
2009年9月24～25日	甲府・都市空間調査2009を実施	地域研究
2009年9月25日	子育て支援コーディネーター養成講座第6回	生涯学習部門

2009年9月・10月随時	ビシランガイド作成のため、商店街でヒアリング調査を実施	地域研究
2009年10月2日	看護実践講座	生涯学習部門
2009年10月3日	コミュニティカレッジ(広域)第1回	生涯学習部門
2009年10月4日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年10月9日	子育て支援コーディネーター養成講座第7回	生涯学習部門
2009年10月9日	看護・福祉専門職支援コーディネーター部門:山梨県介護福祉士会役員との話し合い	交流・支援
2009年10月10日	コミュニティカレッジ(地域)第1回	生涯学習部門
2009年10月10日	コミュニティカレッジ(地域)第2回	生涯学習部門
2009年10月10日 ～11月10日	「外国人から見た山梨の魅力」調査用紙(日本語)の作成および翻訳	地域研究
2009年10月17日	コミュニティカレッジ(広域)第2回	生涯学習部門
2009年10月18日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年10月18日	第2回商店主ヒアリング(スコット)を実施	地域研究
2009年10月22日	インバウンド観光講座第8回	生涯学習部門
2009年10月22日	インバウンド観光講座第9回	生涯学習部門
2009年10月23日	上野原市社会福祉協議会主催 上野原市ふれあい・いきいきサロン研修会にて調査研究の説明	地域研究
2009年10月23日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児未満)第1回	生涯学習部門
2009年10月24日	コミュニティカレッジ(地域)第3回	生涯学習部門
2009年10月24日	看護・福祉専門職支援コーディネーター部門:特別養護老人ホームの看護を考える会役員との話し合い	交流・支援
2009年10月26日	モデル授業案作成のための会議・打ち合わせ	地域研究
2009年10月27日	甲斐絹プロジェクト 打ち合わせ(研究授業の内容について)	地域研究
2009年10月28日	甲府・都市空間調査2009を実施	地域研究
2009年10月28日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児)第3回	生涯学習部門
2009年10月30日	A大学生を対象に「精神保健論」授業で自殺予防教育を実施	地域研究
2009年10月30日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児未満)第2回	生涯学習部門
2009年10月31日	「ビシランガイドin甲府・銀座通り①」を『KAWASEMI』に掲載	地域研究
2009年10月31日	コミュニティカレッジ(地域)第4回	生涯学習部門
2009年10月31日	インバウンド観光講座第5回	生涯学習部門

2009年11月1日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年11月1日	連携協定に基づく環境部門会議(忍野村)	地域研究
2009年11月1日	第3回ホトケドジョウ復活プロジェクト協議会(忍野村)	地域研究
2009年11月4日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児)第4回	生涯学習部門
2009年11月5日	インバウンド観光講座第10回	生涯学習部門
2009年11月5日	インバウンド観光講座第11回	生涯学習部門
2009年11月7日	県大学園祭で模擬店(ブラジル料理パステルの調理販売)を実施	地域研究
2009年11月7日	「ビシランガイドin甲府・銀座通り②」を『KAWASEMI』に掲載	地域研究
2009年11月7日	健康講座	生涯学習部門
2009年11月7日	観光講座第1回	生涯学習部門
2009年11月8日	「カウンセリング入門」研修会第4回	生涯学習部門
2009年11月10日	B高校生を対象に「家庭看護と福祉」授業で自殺予防教育を実施	地域研究
2009年11月10日 ～2010年1月10日	山梨在住外国人100名を対象に山梨の魅力についてアンケート調査を実施	地域研究
2009年11月11日	第3回まち友無尽(行政・大学・商工会議所・商店街・学生5者連携)を開催	地域研究
2009年11月13日	子育て支援コーディネーター養成講座第8回	生涯学習部門
2009年11月13日	社会人・大学生のためのキャリアアップ講座2 第1回	生涯学習部門
2009年11月14日	観光講座第2回	生涯学習部門
2009年11月15日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年11月15日	デザイン講座第1回	生涯学習部門
2009年11月19日	インバウンド観光講座第12回	生涯学習部門
2009年11月19日	インバウンド観光講座第13回	生涯学習部門
2009年11月20日	社会人・大学生のためのキャリアアップ講座2 第2回	生涯学習部門
2009年11月22日	北東アジア学会での学生チームによる学会発表	地域研究
2009年11月23日	観光講座第3回	生涯学習部門
2009年11月24日	ソーシャルワーカー・リカレント講座	生涯学習部門
2009年11月25日	みんなでつくる博物館協議会に参加、以降毎回(省略)	地域研究
2009年11月28日	観光講座第4回	生涯学習部門

2009年12月3日	インバウンド観光講座第14回	生涯学習部門
2009年12月5～6日	研究会参加:「第三回 多文化協働実践フォーラム」 (東京外国語大学)	地域研究
2009年12月6日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2009年12月9日	動作解析データのための動作撮影実施	地域研究
2009年12月10～11日	商店街のクリスマス・ツリーの飾り付けを実施	地域研究
2009年12月11日	社会人・大学生のためのキャリアアップ講座2 第3回	生涯学習部門
2009年12月12日	甲斐絹プロジェクト 第4回研究会(講師 杉野服飾大学 織田晃氏 テーマ「ブランドとは、流行とは」)	地域研究
2009年12月12日	デザイン講座第2回	生涯学習部門
2009年12月12～13日	冬合宿(名古屋市のまちづくり<中心街&有松地区>を視察)	地域研究
2009年12月13日	韓国語番組収録および編集	地域研究
2009年12月17日	A大学生を対象に「生活と健康」授業で自殺予防教育を実施	地域研究
2009年12月17日	インバウンド観光講座第15回	生涯学習部門
2009年12月19日	第3回商店主ヒアリング(朝日町・こころん)を実施	地域研究
2009年12月19日	「カウンセリング入門」研修会第5回	生涯学習部門
2009年12月20日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2009年12月21日	ピタゴラス山梨校授業見学・聞き取り調査①	地域研究
2009年12月21日	モデル授業案検討会実施	地域研究
2009年12月22日	ピタゴラス山梨校授業見学・聞き取り調査②	地域研究
2009年12月26日	動作解析研究のためのデータ分析	地域研究
2009年12月27日	ビシランガイド作成のため、商店街でヒアリング調査を実施	地域研究
2010年1月6日	模擬演習実施 動作解析データのための動作撮影実施	地域研究
2010年1月7日	甲斐絹プロジェクト 「甲斐絹」を題材とした研究授業についてのプレリリース	地域研究
2010年1月9日	動作解析研究のためのデータ分析	地域研究
2010年1月10日	スペイン語番組収録および編集	地域研究
2010年1月11日	新年会(新旧の役員交代) -よつびし総研プロジェクト-	地域研究
2010年1月12日	インタビュー調査:フォーカスグループ(中国系) (県立大学看護学部研究棟)	地域研究
2010年1月12日	甲斐絹プロジェクト 打ち合わせ(研究授業について)	地域研究

2010年1月13日	甲斐絹プロジェクト 山梨大学附属中学での第1回研究授業	地域研究
2010年1月13日	模擬演習実施 動作解析データのための動作撮影実施	地域研究
2010年1月14日	国際シンポジウム参加:「社会統合政策の課題と挑戦 新たな理念と役割を求めて」(笹川平和財団)	地域研究
2010年1月15日	「学生優秀地域プロジェクト」選考委員会	交流・支援
2010年1月17日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2010年1月19日	甲斐絹プロジェクト 打ち合わせ(研究授業について)	地域研究
2010年1月20日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児)第5回	生涯学習部門
2010年1月21日	第4回まち友無尽(行政・大学・商工会議所・商店街・学生5者連携)を開催	地域研究
2010年1月22日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児未満)第2回	生涯学習部門
2010年1月23日	「ビンランガイドin甲府・コリド桜町」を『KAWASEMI』に掲載	地域研究
2010年1月23日	インタビュー調査:フォーカスグループ(ペルー系) (県立大学看護学部研究棟)	地域研究
2010年1月23日	子育て支援フォーラム	生涯学習部門
2010年1月25日	「学生優秀地域プロジェクト」認定式	交流・支援
2010年1月26日	報告書作成のための打ち合わせ-動作解析研究-	地域研究
2010年1月27日	調査データ記録起こし外注 -多文化共生(3)プロジェクト-	地域研究
2010年1月27日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児)第6回	生涯学習部門
2010年1月29日	幼児教育センター月齢別講座(2歳児未満)第3回	生涯学習部門
2010年1月31日	第4回ホトケドジョウ復活プロジェクト協議会(忍野村)	地域研究
2010年1月31日	デザイン講座第3回	生涯学習部門
2010年2月6日	デザイン講座第4回	生涯学習部門
2010年2月7日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2010年2月8日	人間福祉学部共催講演会	生涯学習部門
2010年2月10日	報告書作り -多文化共生(3)プロジェクト-	地域研究
2010年2月13日	研究会参加:「異文化コミュニケーション研究所共同研究プロジェクト公開ワークショップ」(神田外語学院)	地域研究
2010年2月19日	甲斐絹プロジェクト 第5回研究会(平成21年度活動内容、21年度報告書、22年度活動内容について)	地域研究
2010年2月19日	甲斐絹プロジェクト 田辺織物・前田商店見学、県富士工業技術センター及び富士吉田市博物館の「甲斐絹」見学	地域研究
2010年2月20日	地域プロデューサー養成講座	生涯学習部門

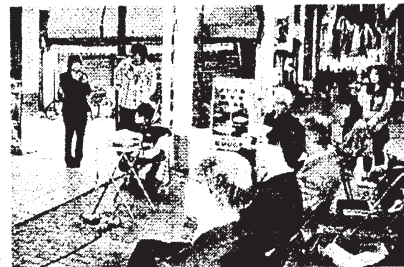
2010年2月21日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2010年2月22日	連携協定に基づく教育部門会議(忍野村)	地域研究
2010年2月22日	アルプス学園(旧ピタゴラス)と大学を繋いだ遠隔日本語授業 試行	地域研究
2010年2月22日	大学周辺自治会との情報交換	交流・支援
2010年2月23日	遠隔日本語授業ミーティング	地域研究
2010年2月23日	甲斐絹プロジェクト 打ち合わせ(甲斐絹を題材とした中学校 における研究授業の反省と今後の検討事項について)	地域研究
2010年2月25日	地域研究交流センターニュースレターVol.10発行	情報発信
2010年2月26日	「ガチンゴジウムⅣ 学生と商店主とで考える甲府中心街の 行方	地域研究
2010年3月1日	アルプス学園(旧ピタゴラス)と大学を繋いだ遠隔日本語授業 実施①・ミーティング	地域研究
2010年3月6日	保育リカレント講座	生涯学習部門
2010年3月6日	看護・福祉専門職支援コーディネーター部門:研修会「看護と 介護のよりよい協働を目指して」開催	交流・支援
2010年3月7日	多言語放送・韓国語・スペイン語番組収録および編集	地域研究
2010年3月8日	アルプス学園(旧ピタゴラス)と大学を繋いだ遠隔日本語授業 実施②・ミーティング	地域研究
2010年3月9日	動作解析研究のための報告書の作成	地域研究
2010年3月15日	2009年度地域研究交流センター年報発行	情報発信
2010年3月15日	群馬県のシルクに関する現地調査	地域研究
2010年3月17日	第5回まち友無尽(行政・大学・商工会議所・商店街・学生5者 連携)を開催	地域研究
2010年3月21日	多言語放送・ポルトガル語・中国語番組収録および編集	地域研究
2010年3月23日	連携協定に基づく景観部門会議(忍野村)	地域研究
2010年3月29日	連携協定に基づく健康部門会議(忍野村)	地域研究
2010年1月20日	甲斐絹プロジェクト 山梨大学付属中学での第2回研究授業	地域研究
2010年1月10日 ～2010年2月28日	「外国人から見た山梨の魅力」調査用紙の回収および整理分 析	地域研究
2010年3月(予定)	山梨県立科学館との連携協定締結	交流・支援

資料 2. 新聞掲載記事

**よつびし総研が
2周年記念式典
活動の成果紹介**

県立大生を中心に甲府市中心街の活性化を目指して活動している「四菱まちづくり総合研究室（よつびし総研）」は九日、甲府・銀座通りの研究室前で開設二周年記念式典を開いた。

県や市、商店街の関係者ら約五十人が参加。代表の高久幾久子さんが「これからも学生にしかできないこと



本年度実施事業を説明する学生
＝甲府・銀座通り

を考えて取り組んでいきたい」とあいさつ。宇野義昌副市長が「これから甲府のまちづくりに貢献してくれると期待している」と激励した。浴衣祭りなど各種イベントや都市空間調査など、二年間の取り組みを紹介。本年度事業として、商店街のお薦め店舗を紹介する「ビランガイド」の作成などを挙げた。同大和太鼓部やアカペラ部の演奏も披露された。

山梨市発注工事で入札前に談合情報 市が対応協議

山梨市発注の市防災行政無線のデジタル化工事の一般競争入札をめぐる、「入札参加資格が一部の業者に有利になるように設定されている」との談合情報が九日までに、山梨日日新聞社に寄せられた。市は同日までに市公正入札調査委員会を開き、対応を協議。十一日の入札前に参加業者から個別に事情を聴き、入札を予定通り行うか決める。

情報は、入札に参加する条件が厳しくなっていて、条件に合う業者は数社に絞られるという内容。業者名は挙げられていない。

2009年5月10日(日)

山梨日日新聞



中央道

▽山梨県立大生らでつくる「四菱まちづくり総合研究室」は11日、甲府・銀座通りで浴衣祭りを開き、大学生がファッションショーで涼しい浴衣姿を披露した。写真。

▽県内の大学生の男女20人が花柄やハート柄など若者向けの衣装を着こなし、お立ち台に上った。思い思いのポーズを取るなど、モデル気分を楽しんだ。

▽家族連れらが駆け付けて学生たちに声援を送り、にぎわった。スーパの撤退など暗い話題が多い中心街を、若者の熱気と華やか衣装で明るく盛り上げた。

2009年7月12日(日)

山梨日日新聞

産学官で「水」のシンポ

県立大など ビジネス活用も提案

山梨県立大学と山梨大学は行政や企業と組み、森林と水の保全や管理、活用に関するシンポジウムを12日に甲府市内で開く。「癒やしと保全」「防災、管理」「地域活性化やビジネス面での活用」



山梨の豊かな自然の生かし方を考える（尾白川渓谷）

梨大、甲府市、北杜市、の3テーマの分科会を設置。産学官の代表者や国内外の研究者が幅広い視点から、自然資源の生かし方を考える。両大学や山梨県、甲府市、北杜市、環境関連事業のアミタなどが実行委員会を組織。「山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウム」と銘打ち、県立大池田キャンパスで開く。

梨大が文部科学省の助成で取り組むアジア地域での水環境管理の研究に関して、日本・韓国・インドネシア・ネパールの研究者が発表する。

第3分科会では特定非営利活動法人（NPO法人）の関係者らが、水と緑を生かした地域活性化の取り組みについて報告。萌木の村（山梨県北

杜市）の松木上次社長、サントリー天然水白州工場（同）の関係者らが水の経済的価値を話し合う。

実行委は500人の参加を見込む。県立大の伊藤洋学長は「山梨の豊かな地域資源を健康や安全・安心、ビジネスなど多面的に見直す契機にしてほしい」と話している。

2009年9月2日(水)

日本経済新聞

観光をテーマにさまざまな業界のプロ4人が持論を展開する観光講座「プロフエッショナルが語る『観光の本質』」(山梨県立大主催)が、甲府・同大飯田キャンパスで始まった。経験や独自の視点に基づく「観光」の本質や方向性について、4回にわたって講演内容を紹介する。



国内外を比較しながら観光地の在り方を語る崔洋一さん
＝甲府・山梨県立大飯田キャンパス

初回の7日は、「月はどつちに出てくる」「血と骨」などそこにあれを見に行く」とどで知られる映画監督の崔洋一さん(60)が講演。撮影案件に合うロケ地を求め、国内

外を歩いてきた崔さんは『光を目指した沖縄にバブル崩壊で荒れ地が残り、絶好のロケ地となったのは皮肉な話』と語ったという。

イタリヤ・ローマを舞台と

プロが語る観光講座① 映画監督 崔洋一さん

体感できる「モノ」に魅力

だが、フドウ畑には白いガードレールが連なる。どうしてトータルでおしゃれをしないのか」と景観のアンバランスさに疑問を感じているという。

崔さんが撮影した「カムイ外伝」の舞台は瀬戸内海。しかし現地には多くの橋が架かり、時代設定と合わないため、リゾート開発が中止された沖縄のある海岸で撮影した。崔さんは「観光とは、字のごとくその場所に『光』があるからこそ生まれる概念」とし、そこにある「物」だけでなく、そのイメージ通りだった。全島観光で体感できる魅力ある「モノ」の大切さを訴えた。

崔さんが撮影した映画「ローマの休日」を例に、「映画に登場するアパートを今も保存するなど、観光資本がしっかりと保全されている」と、開発だけが観光地づくりではないことを強調。観光とは、字のごとくその場所に『光』があるからこそ生まれる概念」とし、そこにある「物」だけでなく、そのイメージ通りだった。全島観光で体感できる魅力ある「モノ」の大切さを訴えた。

山梨経済



「そこに行かなければ体験できない風景や食べ物に魅力を感じる」と語るピーター・バラカンさん＝県立大

「プロフェッショナルが語る観光の本質」の2回目は、0年代の日本の第一印象はあまり良くなかった」という。音楽評論家のピーター・バラカンさん(58)が登場。外国人の視点で、専門の音楽の話を交えて独自の観光論を披露した。

ロンドン大学で日本語を専攻した縁で、日本の音楽出版

プロが語る観光講座②

音楽評論家 ピーター・バラカンさん

その土地らしさ感じたい

社に採用され来日。「1970年代の日本の第一印象はあまり良くなかった」という。特に東京は、建物や音楽にお

いて西洋文化の表面的なコピーが目立ち、外国人の目から見たら「日本らしい」ものがあまり感じられなかった。日

落人料理は一生忘れない」。開発された典型的な観光地より、その土地ならではの文化や自然にひかれるという。

もう一度行きたいと思うポイント

「居心地が良かったとか、優しくされたとか、歓迎されている感じがしたとか、ちょっとしたこと」。

「旅先は心細いもの。見知らぬ場所、笑顔で迎えてくれるだけでも緊張がやわらぐ」と受け入れ側の対応についてアドバイスした。

本的な風情が色濃く残る京都が外国人観光客に人気であることを踏まえ、「日本であればあり得ない文化に外国人は喜ぶ」と強調した。

例として挙げたのは、紀伊半島や奥日光の湯西川温泉。「日常から解放された気分になった那智の滝や、雪に降られながら入った湯西川の露天温泉、いろいろを囲んで食べた

「その国に行かなければないものがあるから観光は楽しい」。これまで赴いた国の中でパリやアムステルダムなど、伝統的な建物が多く雰囲気のある町が印象に残っている。音楽も、その音楽が生まれた国へ行つて聴くと、それまでと違つように響くという。「ギリシャの島に行つて、冷たいワインを飲みながら



「都市の人々は自分がかかわれる『第二のふるさと』を求めている」と話す
北川フラムさん 山梨県立大

「第二の古里探し」にカギ

プロが語る観光講座③

ディレクター 北川フラムさん

「プロフェッショナルが語る観光の本質」3回目の講師を務めたのは、アートディレクターの北川フラムさん(63)。新潟県南部の中山間地で、3年に1度開いている国際美術展「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」をきっかけにした地域活性化の取り組みを紹介した。

芸術祭の会場となる十日町市を中心としたエリアは豪雪地帯で、過疎化、高齢化が深刻。芸術祭を企画したのは、将来の展望がない地域を元気にライドを取り戻してほしいと

地元民も制作にかかわるなど交流が深まっている。

芸術祭に会場する7割がリピーター。3年に1度だけでなく、季節の祭りや行事のたびに足を運ぶ人も増えた。「大きな会場に作品が点在し、交通の便が悪い場所なのに、なぜ多くの人が訪れるのか。作品をきっかけに旅をして、全身で汗をかくその土地を体感できる経験が大きい」

さらに「都市の人たちは『第二のふるさと』を求めている」と推測。観光についても「従来の物見遊山の集団観光から、家族や少人数のグループ単位の観光に変わり、自分がかかわれる地域を探る旅行になっている」と将来の観光の在り方を示した。

の思いがあった」。

当初、地元6市町村の議員

の思いがあった」。

らの反対に遭いながらも地道に交渉を重ね、2000年からスタート。国内外の著名な建築家やアーティスト、デザイナーを招いて、屋内外にアート作品を展開した。

今夏は約350作品を展示し、約2カ月の会期中に約37万人を集客する世界でも注

かけになっている」と強調する。

休耕田になりかけた棚田や、子どもがいなくなり廃校となった学校、新潟中越地震で被害に遭い放棄されようとした民家など「地域にあるすべてがアート作品の舞台となり、対象となる」という。制作過程で地元住民が反発することもあるが、理解し合い、

かけになっている」と強調する。

さらに「都市の人たちは『第二のふるさと』を求めている」と推測。観光についても「従来の物見遊山の集団観光から、家族や少人数のグループ単位の観光に変わり、自分がかかわれる地域を探る旅行になっている」と将来の観光の在り方を示した。



講演する藤岡比左志さん
＝山梨県立大飯田キャンパス

観光講座「プロフェッショナルが語る『観光の本質』」(山梨県立大主催)の最後は、海外ガイドブックの草分け「地球の歩き方」を出版するダイヤモンド・ビッグ社の藤岡比左志社長(52)が登場。国内外の観光事情を紹介しながら、受け入れ側に求められる姿勢

観光講座「プロフェッショナルが語る『観光の本質』」を提言した。

創刊30年を迎えた「地球の歩き方」シリーズは、現在22タイトルを発行。バックごみ拾いをしながら富士山を登るツアーも成功している。『感動したいから』という動

と考えているが、旅行客には魅力的なものばかり」と、視点を転換する必要性を強調。「既存の素材を効果的に組み合わせる再利用することで、新たな価値は創造される」と訴えた。

プロが語る観光講座④

出版社社長 藤岡比左志さん

客の視点で「価値」創造

人向けのホテルも紹介している。『どついた人が旅行するか、旅に何を求めているかをリサーチして、そのニーズに合わせていくことが大切』とアドバイスした。

長野・湯田中温泉につかるサルは、「外国人観光客から『スノーモンキー』として人気を集めている」という。温泉に向かうまでには、きれいな庭がある旧宿場の本陣跡や造り酒屋などもあり、「地元

の人は『何もないところ』とめられている」(おわり)

甲斐絹「出前授業」でPR

県立大が産官学プロジェクト 歴史や特徴、子どもに伝承

山梨県立大地域研究交流センター(波木井昇センター長)は、甲斐絹の伝承と地域ブランドとしての売り出しを目的に、本年度から産官学連携の研究プロジェクトに取り組んでいる。これまでの商品開発方法の検討に加え、今月からは甲府市内の中学校を皮切りに研究授業を展開するなどPR活動を強化。まずは県内の多くの若者に甲斐絹を知ってもらい、イメージアップにつなげたい考えだ。

同センターによると、研究プロジェクトの期間は来年度までの2年間。被服環境学を専門とする同大人間福祉学部

の齊藤秀子教授を中心に、大学教授や県職員、甲斐絹技術

で、研究プロジェクトはこれまで

ンバーが甲斐絹について講義するほか、甲斐絹でティッシュケースを製作する実習を行う。今後は、生産が盛んだった富士吉田市内での開催を検討しているという。

波木井センター長は「これから研究内容を学会で発表するなどPRして、甲斐絹のイメージアップや地場産

として全国に発信しよう」と、服飾関係者を講師に招いた勉強会を開くなど商品開発方法の研究を進めている。

新たに取り組む研究

授業は、県内にいな

ら甲斐絹を知らない若

者に甲斐絹の歴史や特

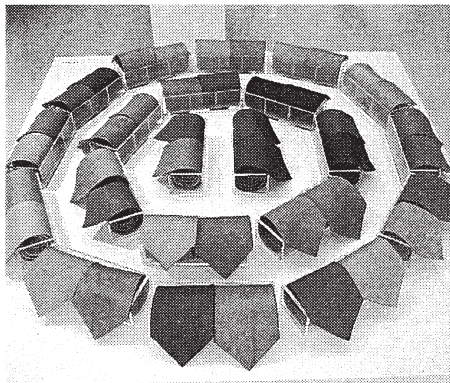
徴などを知ってもら

うと企画。第1弾は山

梨大付属中3年生を対

象として13、20日の2

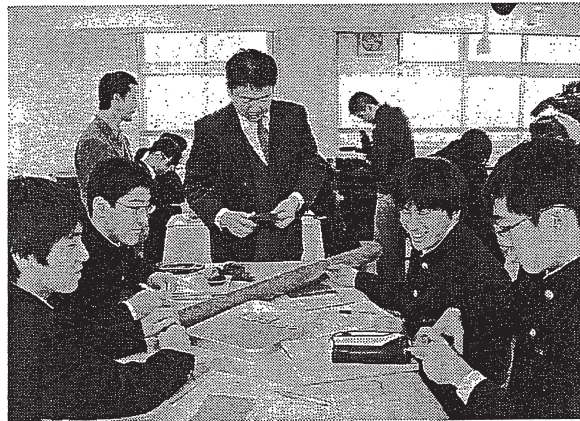
回行い、甲斐絹座のメ



ネクタイなどに加工されている、山梨の地場産業品の「甲斐絹」(県提供)

業の活性化につなげて
いきたい」と話してい
る。

甲斐絹の手触り知って 山梨大付属中で出前授業



県立大地域研究交流センターは13日、甲斐絹の伝承を目的とした出前授業を甲府・山梨大付属中で開いた。

同センターが本年度から取り組んでいる、甲斐絹を山梨ブランドとして発信する産官学連携プロジェクトの一環。

プロジェクト研究者で、甲斐絹技術を復活させ、新製品を開発している企業グループ「甲斐絹座」のメンバー2人が甲斐絹の歴史や特徴、プリント布との違いを説明した。

甲斐絹の説明を受けながら、布の手触り確かめる生徒
――甲府・山梨大付属中――

うち、甲斐絹について知識のある生徒は数人。生徒たちは初めて触れる甲斐絹の端切れや雨傘を光にかざし、布の光沢を確かめていた。吉川雅史君(15)は「わき水などに恵まれた山梨だからこそできる地場産業なのだと分かった」と話した。

今回の授業では、甲斐絹を使ってポケットティッシュのケースを作製する。講義を担当した甲斐絹座の前田市郎社長は「子どもたちに地場産業への認識を深めてもらうことで、甲斐絹の地域ブランドとしての定着と伝承につなげていきたい」と話している。

同センターは今後、出前授業を各地で開く予定という。

甲府ぐんない

Kaiji Network

世界に通用する
デザインを解説

県立大で講演会

山梨県立大はこのほ
ど、甲府・同大飯田キ
ャンパスで、高知県在
住のデザイナー梅原真
さんの講演会を開い
た。

「考え方をデザイン

する」一次産業×デザ
インでつなぐ土佐の地
域力」と題して、自身
の手掛けたデザインを
ユーモアを交えて紹介
した。

英米に輸出されるま
でになった四万十川流
域の「おばちゃん」が
考案した新聞バッグに
ついて触れ、「東京、
ニューヨークの方が先
行しているイメージが
あるが、世界に通用す
る商品は、実は田舎の
おばちゃんの頭の中に
眠っているのではない
か」と語り、地域に眠
る資源やアイデアを掘
り起こすことの大切さ
を訴えた。

講演会は同大が20
07年度にスタートし
た市民対象のデザイン
特別講座の一環。聴講
した約90人は、メモを
取るなどして熱心に聞
き入っていた。

2010年2月5日(金)

山梨日日新聞

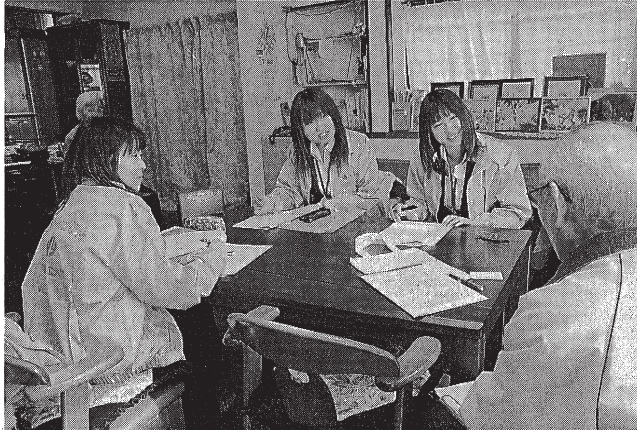


県立大2学部、地域での演習2年目

看護と福祉、二つの学部の学生たちが一緒になって、地域の高齢者の生活実態を調べるフィールドワークに、県立大学が取り組んでいる。在宅介護の現場や医療施設などで働く際に必要となる「専門職の連携」の意義を、実地に学ぶなどの試み。演習を通して互いの持つ「視点」の違いに気付くなど、試行2年目で軌道に乗ってきたと大学側は手応えを語っている。(吉田晋)

「看護」と「福祉」 連携の意義学ぶ

看護と福祉の学生が一緒になって高齢者宅を訪ねるフィールドワーク＝甲府市内



職種間の壁取り払う交流

「食事の準備は、主にながなさいますか。数人ずつ一組になった学生たちが、高齢者の自宅を訪ね、質問を投げかける。家事、趣味、友人や家族、通院の状況……」

看護学部の約1000人と、人間福祉学部の約60人が、2月上旬、数人ずつのグループに分かれて甲府市内の高齢者

たちを訪ねた。家庭や地域での生活の様子について聞き取る実地演習の日だ。

高齢者のニーズ 生の声聞き取り

地域に住む高齢者の具体的な生活・健康ニーズを体感したり、聞き取りをする際の基本的な姿勢を学んだりするの

が目的。同時に、同じ大学とはいながらキャンパスもカリキュラムも違う両学部の学生が、互いを理解するのねらいの一つだ。

県立大は、県立看護大と県立女子短大が合併して2005年4月に開学。3学部のうち看護、人間福祉の両学部は、同じ甲府市内でも池田、飯田の両キャンパスに分かれ、相互の交流は密とは言えなかった。

「学部が違つと初めて会う顔が多いのですが、将来資格を取って働き始めれば直面する『職種間の壁』を取り払った形での教育態勢が必要だと思えます」。この演習のリーダー役の佐藤悦子看護学部長は言う。

フィールドワーク直後の報告会では、ささく「双方の視点の差」が話題になった。「看護は『治す』、福祉は『伸ばす』といった発想の違いがあるように思った」。ある班では、体に不具合がある人の外出について、看護学生はけがのリスクに目を向け、福祉の学生はむしろ閉じこもりを心配する、といった互いの見方に気付いたと言う。

「ケアプランを作る場合には双方の視点を考慮しなければならず、難しいなと実感した」。

血糖値が高い男性の話聞いた班では、看護学生は栄養コントロールが十分かどうかに着目したのに対し、福祉の学生は炊事を担う妻の負担を気にかけていた。

他の班は、肩につなげたチューブで流動食をとっている人の例に注目。むせて気管に逆流することを心配する看護

と、本人に楽な姿勢を重視する福祉とで見解が分かれ、「互いに譲れない点は、その根拠を理解し合うことが大切だと思う」と報告した。

これらを受けて、指導教員は「看護と福祉の視点は、対象者の状態に応じてウエイトバランスが継続的に変わっていく」と総括。佐藤学部長も「他者とのコミュニケーションの姿勢を、これを機に学んで欲しい」とまとめた。

地域の課題探り 調査内容活用へ

演習は、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」に採択されたプロジェクト。3年目の来年度以降は必須科目にするという。聞き取った内容をまとめて地域の課題を探り、公民館で報告会を開いたり、高齢者ケアの総合調整を担う甲府市の「地域包括支援センター」に提供したりと、活用方法も工夫したいという。

資料3. フライヤー等

「春季総合講座」～最前線シリーズ～

開催のご案内・参加者募集中

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター <キャンパスネットやまなし連携講座>

◇山梨県立大学では、毎年春に「最前線シリーズ」と銘打って、本学の三つの学部の特徴を生かした公開講座を開催してまいりました。

今回は、山梨県立大学の新しい顔である伊藤洋新学長、看護学部、人間福祉学部の新学部長である佐藤悦子教授、藤谷秀教授を講師にお迎えしました。

それぞれの講師が、いま最も関心のある領域についてお話しを致します。この機会に、ぜひご参加ください。

◇日時：平成21年5月23日、30日、6月6日（3回連続・いずれも土曜日）
午後2時～4時

◇会場：山梨県立大学 飯田キャンパスA館6階 サテライト教室

◇対象：一般市民（学生も可） 定員：各70名 入場無料、事前申し込み制

◆第1回 5月23日（土曜日）

演題：「よりよいコミュニケーションをめざして」 講師：伊藤 洋（山梨県立大学学長）

◆第2回 5月30日（土曜日）

演題：「在宅療養を支える～高齢になっても、病気になっても、住みなれた地域で暮らし続けるために～」 講師：佐藤 悦子（看護学部長）

◆第3回 6月6日（土曜日）

演題：「人の価値について」 講師：藤谷 秀（人間福祉学部長）

***** 申込み用紙 *****

メール 件名を「受講申し込み」として、e-mail: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp までお送りください。

FAX この用紙に記入の上、FAX：055-224-5386 までお申し込みください。

お名前	電話
e-mail	Fax
住所	
申し込み講座（○をつけてください）	1回 2回 3回 全てに参加

【お問い合わせ先】 電話：055-224-5260（地域研究交流センター担当：相川まで） 受付：月～金 9：00～17：00

社会人・大学生のためのキャリア・アップ講座

社会人のみなさんの専門性をブラッシュアップするために、就職をひかえた大学生のみなさんのキャリア形成のために、山梨県立大学では、多様なニーズに応える「キャリア・アップ講座」を開催いたします。その第一弾として、7月12日（日）に実施される簿記3級試験を視野に入れた「簿記入門集中講座（3回）」を、下記の要領で開催いたします。みなさま、どうぞ奮ってご参加ください。

<講座内容>

時間は、各回とも 18:30~20:00

1回 6月26日（金） 商業簿記の基礎としての基本的な仕訳と計算問題対策及び伝票・試算表・決算対策など。

2回 7月 3日（金） 検定試験3級の模擬試験問題を中心に試験対応できる技術を学びます。

3回 7月10日（金） 実際の過去問題を解いて、本試験に合格できる技術を習得します。

◆【場所】山梨県立大学 A館5階 A501 教室

◆【講師】帆足 俊彦先生（山梨県立大学国際政策学部 教授）

◆【参加費】 無 料 （但し 教材は実費、当日購入可）

『簿記能力検定模擬試験問題集』（実教出版 定価 600 円）

◆【講座申し込み先】：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5-11-1 山梨県立大学
Fax 055-224-5386、e-mail: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

*講座申込期限：6月22日（月）まで。

注 7月12日の簿記検定試験（全国経理教育協会主催）を受験したい方は、下記の日時までに各自申し込みが必要です。 受験申込期限：6月15日 4時30分まで

*山梨県立大学生協（B館2階）でも申し込みができます（要受験料：3級 1,200 円）。

山梨県立大学生涯学習・キャリア・アップ講座申込書

お名前		職業	
ご住所		電話	
検定の受験予定	ある ない	E-mail	

問い合わせ先：Tel 055-224-5260（担当：相川）

—山梨発 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウム—

かい 甲斐国の『水と緑』を見つめて

日 時：２００９年９月１２日（土）１３：００～１８：００（開場１２：３０）

会 場：山梨県立大学 池田キャンパス 甲府市池田１丁目６－１

これからの地球環境を考える上で、安全で美味しい水とそれを育む豊かな森や河川の大切さが、大きくクローズアップされています。山梨の恵まれた水と環境資源は、我が国の美しい国土のシンボルであり、これからの地球環境の到達目標の一つであると言っても過言ではありません。この風土性を目の当たりにしながら、これからの国土と調和のとれる環境のマネジメントや、持続可能な地域活力の涵養について議論し、今後の地域育ての戦略にまとめ上げ、アジア諸国や世界にも発信したいと考えます。

【全体シンポジウム】 １３：００～

◆開会挨拶

実行委員長	山梨県立大学学長	伊藤 洋
来賓	山梨県知事	横内 正明
来賓	甲府市長	宮島 雅展

◆基調講演

- 『山梨の自然の魅力』 エッセイスト・翻訳家 青木 奈緒
- 『水と環境に恵まれた風土』 山梨大学大学院教授 砂田 憲吾

◆問題提起

- 『持続可能性と地域戦略』 環境省総合環境政策局 中島 恵理
- 『環境ビジネスと山梨の水・緑』 サントリー・ビジネスパートナー 岩崎 良
- 『持続可能性から考える地域戦略』 アミタ株式会社代表 熊野 英介

【分科会セッション】 １５：２０～

◆第１分科会 『緑の活用と保全』

進行：箕浦一哉（山梨県立大学准教授）

セッション１：健やかな人を育む緑

伏見 正江（山梨県立大学看護学部）
田村 孝次（Fuji こどもの家バンビノの森）
荻野 雅之（木葉舎つみ木研究所）

セッション２：パネル・ディスカッション

滑志田 隆（環境ジャーナリスト）
白倉 政司（北杜市長）
中桐 秀晴（山梨県森林総合研究所）
中島 恵理（環境省）
熊野 英介（アミタ株式会社）

◆第２分科会 『水循環と生活』

進行：坂本 康（山梨大学グローバルCOE 教授）

セッション１：流域水防災の新展開

大石 哲（山梨大学准教授）
最新気象レーダーを用いた防災システム
Seong-sim Yoon（山梨大学）
韓国都市とレーダー水文学
Dian Sisinggih（山梨大学）
都市洪水氾濫シミュレーション手法

セッション２：アジアの水環境への貢献

二宮 浩輔（山梨県立大学准教授）
水環境管理と経済
風間 ふたば（山梨大学大学院教授）
安定同位体による地下水起源推定
Sangam Sherestha（山梨大学）
流域水質環境の評価法

◆第３分科会 『地域資源と地域戦略』

進行：波木井 昇（山梨県立大学教授）

セッション１：水と緑を活かす地域戦略

早川 源（転換期の山梨の水と緑、山梨総合研究所）
斉藤 七二（ウェルネスクラスター構想、同総研）
窪田 真弓（NPO 法人 富士川・夢・未来）
中山 基（やまなし森林づくりコミッション）

セッション２：パネル・ディスカッション

船木 上次（萌木の村代表、国交省観光カリスマ）
未 定（NHK 甲府放送局）
向山 茂徳（黒富士農場代表）
日下部 健（サントリーロザケ(株) 白州水工場部長）

参加費無料

〔参加申込み方法・申込み先〕

参加者の氏名、住所、電話番号、メールアドレス、懇親会の参加の有無を記入の上、下記宛にメールまたはFAXにてお申込みください。

国際シンポジウム 実行委員会

山梨県立大 地域研究交流センター

Eメール：mizu-midori@ued.or.jp

FAX：055-224-5386 TEL：055-224-5260

〔連絡事務局〕

財団法人 日本開発構想研究所

TEL：03-3504-1768 FAX：03-3504-0752

株式会社ふるさと研究

TEL：03-5524-2553 FAX：03-5524-2559

【懇親会】 １８：００～（参加費１,０００円、要申込み）

〔主催〕 水と緑を考える大学・地域・産業連携国際シンポジウム実行委員会 〔協賛〕 サントリー（株） アミタ（株） 東京電力（株） 東京ガス（株） ほか
〔共催〕 山梨県立大学 山梨大学グローバルCOE プログラム 〔後援〕 山梨県 甲府市 北杜市 農林水産省 環境省 国土交通省（財）山梨総合研究所 ほか
〔協力〕 木葉舎つみ木研究所 Fuji こどもの家バンビノの森 萌木の村 NPO 法人 山梨・水と森の会 黒富士農場

山梨県立大学地域研究交流センター

看護実践講座

体験から学ぶ災害時の看護活動

—被災直後だけではなく・・・各期に求められる看護活動—

「災害による人々への被害は数値では表現しきれず、生命と生活に関する質的な問題が災害各期に潜んでいる」と酒井講師は指摘しています。災害看護は、医療施設内にとどまるものではなく、被災現場、避難所、仮設住宅など人々が生活するあらゆる場で実践されています。そのため、医療・福祉・看護の協働が重要となります。本講座では、災害時の看護支援方法に限定せず、講師が自ら多くの被災地に赴いて得た豊富なデータを基に、わかりやすく臨場感あふれる内容で講演をいただく予定です。この内容は一般地域住民の皆様から看護専門職および、学生や教育機関の教職員の皆様にも対応できるものです。この機会に、近い将来、自分たちにも起こりうる災害への意識を高めるとともに、さまざまな場面で被災者を支援できるような知識を得ましょう。

日 時：平成21年10月2日（金） 18：30～20：30

講 師：福井大学医学部看護学科 教授 酒井 明子 氏

場 所：山梨県立大学看護学部（池田キャンパス）3号館 101 講義室

対 象：看護職員、県立大学学生および教職員、地域住民の皆さん

受講料：無料（事前の申し込みは不要）



<お問い合わせ先>

山梨県立大学看護学部 〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1

TEL 055-253-7859 FAX 055-253-7781(担当:学務課 中澤)

山梨県立大学ホームページ <http://yamanashi-ken.ac.jp/>

健康講座

新型インフルエンザの正しい知識と予防法

新型インフルエンザについての正しい知識と具体的な予防方法(日常生活の過ごし方、マスクの着用方法、うがい・手洗いの方法等)について、講師から分かりやすく説明をしていただきます。講座に参加して、新型インフルエンザの流行に備えましょう。

日 時 平成 21 年 11 月 7 日(土) 14:00～16:00

講 師 古屋 好美 (山梨県中北保健所長)

会 場 山梨県立大学池田キャンパス3号館 101講義室

対 象 県立大学学生および教職員・地域住民の皆さん

受講料 無料 (事前の申し込みは不要)

＜お問い合わせ先＞

山梨県立大学看護学部

〒400-0062 山梨県甲府市池田 1-6-1

TEL 055-253-7859 FAX 055-253-7781

山梨県立大学ホームページ <http://yamanashi-ken.ac.jp/>

担当:学務課 中澤

山梨県立大学「観光講座」

第1回

2009年11月7日(土)

講師: 崔 洋一 氏

(映画監督)

第2回

11月14日(土)

講師: Peter Barakan 氏

(音楽評論家・ブロードキャスター)

第3回

11月23日(月・祝)

講師: 北川 フラム 氏

(アートディレクター)

第4回

11月28日(土)

講師: 藤岡 比左志 氏

(出版編集者)

崔 洋一 氏

日本映画監督協会理事長、宝塚造形芸術大学教授

1949年長野県佐久市生まれ。

93年「月はどこに出ている」で映画賞を総なめした。

おもな監督作品には、95年「マークスの山」、98年「犬、走る。」、99年「豚の轡い」、

02年「刑務所の中」、04年「クイール」、04年「血と骨」、07年「美」(初の韓国映画)などがある。

09年「カムイ外伝」を完成、9月公開予定。

また、多くのテレビ番組でコメンテーターをつとめ、99年「御法度」(監督大島渚)では近藤勇役で出演するなど活動の幅が広い。

北川 フラム 氏

東京都出身。大学卒業後、ダイヤモンド社へ入社。

マネービギナーのための情報誌「ダイヤモンドZAI」など多くの雑誌や書籍を編集。

現在、「地球の歩き方」を発行するダイヤモンドビッグ社代表取締役社長。

アートディレクターとして国内外の美術館、企画展、芸術祭を多数プロデュースする。

1997年より経歴豊かなアート・エッセイを数冊出版し、2000年から開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」では総合ディレクターを務める。

2007年に新潟市美術館館長に就任。

主な役職は、財団法人直島美術館財団常務理事、アメリカ合衆国コサンティ財団理事、地中美術館総合ディレクター、東京都現代美術館美術資料収蔵委員ほか。

会 場 山梨県立大学飯田キャンパス講堂(甲府市飯田5丁目11-1)

時 間 14:00~16:00/入場無料

■お問い合わせ・お申し込み 山梨県立大学 地域研究交流センター(担当 相川)

TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386 E-mail:ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp

件名を「観光講座」とし、氏名・電話番号・住所・参加希望日をファクシミリ又は電子メールでお送りください。

主催:山梨県立大学/実施:地域研究交流センター

「観光の本質」

映画・音楽・アート・出版の視点から見えるもの

プロフェッショナルが語る



Peter Barakan 氏

1951年ロンドン生まれ。

ロンドン大学日本語学を卒業後、1974年に音楽出版社の著作権業務に就くため来日。

現在フリーのブロードキャスターとして活動。「CBSドキュメント」(TBSテレビ)、「ビギン・ジャパノロジー」(NHK総合テレビ)、「ウィークエンド・サンシャイン」(NHK-FM)、「パラカン・ビート」(OTONaMazuiンターネットラジオ)などを担当。

著書に「魂(ソウル)のゆくえ」(アルテスパブリッシング)、「ロックの英訳を読む」(集英社インターナショナル)、「ぼくが愛するロック名盤240」(講談社+α文庫)、「猫はマンキ、お宝はマニ日本人のための英語発音ルール」(NHK出版)などがある。

藤岡 比左志 氏

ダイヤモンドビッグ社代表取締役社長

ダイヤモンド・ビッグ社代表取締役社長

1957年東京都生まれ。立教大学法学部卒業。

1980年ダイヤモンド社入社。雑誌編集を10年、書籍編集を9年担当。

ベンチャー企業経営者を組織した「ダイヤモンド経営者倶楽部」担当編集長などを経て、「ダイヤモンドZAI」誌の創刊編集長。2000年3月の創刊号は30万部を売完。

2002年ダイヤモンド社取締役(〜2006年)。

2003年から「地球の歩き方」シリーズ発行元のダイヤモンド・ビッグ社代表取締役専務を兼任。2008年ダイヤモンド・ビッグ社代表取締役社長に就任。現在に至る。

社会人・大学生のためのキャリア・アップ講座

社会人の方、企業に就職を予定している大学生のみなさんを対象に、山梨県立大学では、多様なニーズに応える「キャリア・アップ講座」を開催しています。

今回は、「社会人のための企業取引最前線」をテーマに専門家の講演による、連続3回の講座を下記の要領で開催いたします。みなさま、どうぞ奮ってご参加ください。

◆キャリア・アップ講座「社会人のための企業取引最前線」◆

1回	11月13日(金) 「よくわかる倒産法入門」	(概要)「倒産」って聞いたことあるけど、よく分からない？ 企業や個人が倒産した時、民事再生法など最新の倒産法制について、その実態としくみを初心者にもわかりやすく解説します。 講師：中島 弘雅氏 (慶応義塾大学法科大学院 教授)
2回	11月27日(金) 「地域における金融ビジネス」	(概要) 山梨県内における産学官連携、農産物のマッチングフェアなど、地元金融機関の地域活性化に向けたさまざまな取組みについて、具体例を交えわかりやすく解説します。 講師：山崎 利明氏 (山梨中央銀行 営業統括部副部長)
3回	12月11日(金) 「金融取引における法的視点」	(概要) 銀行や証券会社ではいろいろな金融商品を販売している。法的には預金とローン、株式と債券、保険商品はどこがどう違うのか？ 身近な金融取引を法的視点から改めて考えてみる。 講師：澁谷 彰久氏 (山梨県立大学 国際政策学部教授)

◆時間は、各回とも 18:30~20:00 です

◆【場所】 山梨県立大学 A館6階 サテライト教室

◆【コーディネーター】 澁谷 彰久 (山梨県立大学国際政策学部教授)

◆【参加費】 無 料

◆【講座申し込み先】：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5-11-1 山梨県立大学

Fax 055-224-5386、e-mail: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

問い合わせ先：TEL 055-224-5260 (担当：相川)



山梨県立大学生涯学習・キャリア・アップ講座申込書

お名前		職業	
ご住所		電話	
出席予定の回に○をつけてください	1回、2回、3回、全回	E-mail	

平成21年度山梨県立大学・デザイン特別講座「つながりを育むデザイン」第1回

DESIGN = SOCIAL

デザインと社会とのつながり

私たちが生活のなかでふれている、プロダクトやパッケージ、サインなどさまざまなデザイン。

優れたデザインやヒット商品が生まれた背景には、過去からつながる社会の動き、人々の望んだ豊かさ、といった歴史的な必然性が隠れています。「デザインと社会は密接につながっている」一。

よりよい未来のデザインについて考えるとき、過去のデザインとその背景にある社会の動きから、どのようなことが学べるのでしょうか？

数多くの優れたデザインをコレクションし、その背景を独自の視点から分析・編集、エアラインや北欧デザインブームを仕掛け、現在は展覧会の企画や企業のマーケティング等、多方面で活躍する柳本浩市氏を講師に、セミナーを開催します。多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

日時

2009.11/15 日 13:30~16:00

講師

柳本 浩市氏

1969年 荏崎市生れ

マーケティング会社勤務後、2002年独立「Glyph.」(グリフ)を設立。

自社活動として出版や著作権管理、商品製造販売、展覧会の企画・監修を主に行なう。

個人としてデザインに関係した雑誌の監修や編集、執筆。講演会や、大手企業のアドバイザー、マーケティングやブランディングを行なっている。

KDDIの「iida」ではデザインプロデュースを手がける。

近著に、「DESIGN=SOCIAL」(ワークスコーポレーション)がある。

<http://metabolism.jugem.jp/>



対象

一般県民

(学生、デザイナー等。どなたでもご参加いただけます。)

受講
無料

会場

山梨県立大学・飯田キャンパス講堂

[甲府市飯田5丁目11-1]

お申込

受講を希望される方は、下記にご記入のうえFAXにて、またはお電話にてお申込ください。

山梨県立大学 地域研究交流センター TEL:055-224-5260 FAX:055-224-5386



お名前			
ご連絡先	tel	fax	e-mail
ご住所	〒		

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター／協力：山梨県工業技術センター

山梨県立大学地域研究交流センター

ソーシャルワーカーリカレント講座のご案内

ソーシャルワークは経験や勘だけで行うものでなく、近年、理論的根拠に基づいた実践が求められています。これまで無意識に行ってきた実践も、ソーシャルワークの実践モデルから考えると説明ができる支援方法もあります。これまでの実践を見直し、これからも自信をもって仕事をしていくために、リカレント講座に参加してみませんか。

社会福祉に携わる多くの方々の参加をお待ちしています。

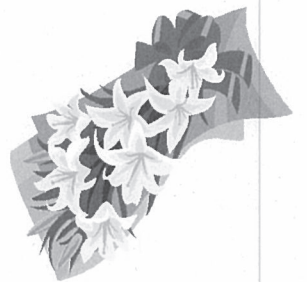
1. 日 時	2009 年 11 月 24 日 (火) 午後 6 時半～8 時半
2. 場 所	山梨県立大学 飯田キャンパス サテライト教室
3. 講演内容	「ソーシャルワーク実践モデル」の理解と活用
4. 講 師	早稲田大学人間科学学術院 教授 加瀬裕子先生
5. 対 象	社会福祉分野の実務者 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・ 介護支援専門員・相談員等)

----- 加瀬裕子先生のご紹介 -----

日本社会事業学校専任教員、桜美林大学経営政策学部助教授、桜美林大学経営政策学部教授を経て、2004 年から現職。

専門は、老年学（老人福祉論／コミュニティケア論／社会福祉援助技術論）。

大学院では老年社会福祉学を担当し、ソーシャルワークの実践モデルについて、心理社会モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、エコロジカル・モデル、エンパワーメント・モデル、危機介入モデルなどを実践的技法として活用した指導も行っている。



申し込み・問い合わせ先

山梨県立大学 地域研究交流センター

〒400-0035 山梨県甲府市飯田五丁目11番1号

電話 055-224-5260 FAX055-224-5386

平成 21 年度山梨県立大学・デザイン特別講座「つながりを育むデザイン」第 2 回

町をつなぐ、編集とデザイン

ワークショップ「町の魅力を見つける、編集体験」

地域の情報を発信するフリーペーパーや雑誌づくりを手掛ける編集者とデザイナーを講師に迎え、ワークショップ体験から、地域の人、もの、ことをつなぐ編集とデザインの力について考えます。ワークショップでは、実際に町を歩き、発見したことをもとに小さな冊子を手づくりします。



日 時

2009 年 12 月 12 日 (土) 午前 10 時 ~ 午後 16 時

会 場

山梨県立大学・飯田キャンパス サテライト教室 [甲府市飯田 5 丁目 11-1]

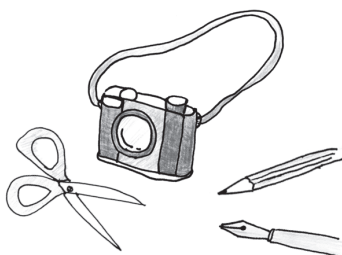
講 師

雨宮 千春 (cocochi 代表/編集者)

1968 年山梨県南アルプス市生まれ。21 歳の時に東京の編集プロダクションへ編集者として入社。以来、今年で 20 年、編集の道一筋。13 年前から活動を山梨へ移し、現在は、甲府市丸の内デパートビル 2 階の「cocochi (ココチ)」を主宰。今年、9 月 20 日には新しい雑誌『cocochi』準備号を創刊。

保坂 紀明 (グラフィックデザイナー)

1976 年生まれ。甲斐市出身。立命館大学法学部卒業後、某都市銀行に勤務。デザインへの想いが膨らむ一方のため、退職。キャンプ ビジュアル ステーション勤務。THE CONRAN SHOP、ポーラ化粧品本舗など、ホームファニチャー、コスメなどのデザインを手掛ける。現在は、デザインの拠点を山梨に置き活動している。



持ち物

デジタルカメラ、メモ帳、
筆記用具、はさみ、画材 (お好みのものがあれば。)

- 学生、一般問わず、ご興味のある方はどなたでもご参加いただけます。受講は無料です。(定員：30 名)
- 受講を希望される方は、FAX または E メールに、下記内容をご記入のうえ、お申し込みください。

山梨県立大学 地域研究交流センター FAX: 055-224-5386 MAIL: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp TEL: 055-224-5260

お名前			
ご連絡先	tel	fax	e-mail
ご住所	〒		

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター／協力：山梨県工業技術センター

山梨県立大学第3回子育て支援フォーラム

パネルディスカッション「多文化共生時代の子育て支援」

目 的：子育て中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生たち、学生を教育する教員、自治体の担当者など、関係者が一堂に会して、それぞれの思いを共有することにより、本県の子育て支援の質の向上を図るとともに、本学の子育て支援にかかわる今後の教育と地域貢献のあり方を探究する。昨年度に引き続き、第3回を開催する。

対 象：子育て中の方、子育て支援関係者、保育／教育関係者、学生、その他関心をお持ちのすべての方のご参加を歓迎いたします。

日 時：平成 22 (2010) 年 1 月 23 日 (土) 14:00～16:00 (受付 13:30～)

会 場：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

主 催：山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

共 催：山梨県立大学 地域研究交流センター

参加費：無料 **託 児：**あり (定員 20 名、6 ヶ月以上のお子さん)



【パネリスト】

- 保育園の立場から：富田 秀香 氏 (田富第一保育園 保育士)
- 研究者の立場から：山岡 テイ 氏 (情報教育研究所所長)
著書：『多文化子育て (学習研究社)』『地域コミュニティと育児支援のあり方 (ミネルヴァ書房)』等
- 日本で子育てするペルー人の母親の立場から：西田 ジャケリーネ 氏
(南アルプス市在住、ペルー出身、2 児の母、日系南米人コミュニティの声)
- 子育て中の国際結婚家庭の立場から：吉田 恵貞 氏・吉田 均 氏
(甲府市在住、2 児の母と父、恵貞氏は台湾出身、均氏は本学国際政策学部准教授)

問い合わせ・申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター (電話 055-224-5260)

メールの場合：件名を子育て支援フォーラム申込とし、ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp まで下記の項目をお知らせください。

FAX の場合：以下の申込み用紙に必要事項を記入して、FAX 055-224-5386 まで。

***** 申込み用紙 *****

お名前 _____ ご所属 _____

ご住所 _____

(自宅・勤務先) _____

電話・携帯・FAX _____

(ご連絡がしやすいものをお選びください)

平成21年度山梨県立大学・デザイン特別講座「つながりを育むデザイン」第3回



考え方をデザインする

～一次産業×デザインでつなぐ土佐の地域力～

講師

梅原 真氏 Umebara Makoto

坂本龍馬の故郷、高知で生まれた彼が手掛ければ、店頭に並んだ瞬間から、次から次へと飛ぶように売れていく。それは漁師のカツオだろうが、何もない砂浜だろうが、ユズだろうが、そして村であろうが関係ない。ただし、仕事は一次産業と地域に関するものしか受けない。もちろん、大企業の依頼も断り続けている。そんな不思議な力を持ちながらも、自らの仕事を「地デザイン」と呼んでいる凄腕デザイナー、梅原真氏である。

「薫焼き鰹たたき」や「砂浜美術館」「四万十ドラマ」「島じゃ常識 サザエカレー」「高知アイス」…。その彼独特の「考え方をデザインする」という考えから、次々とヒット商品が生み出されてきた。仕事を受けると何度も現地に通り、現地の人々の話を熱心に聞き、時に激論しながらも、その芯を探っていく。そして、商品の「土地の遺伝子」や、商品の「アイデンティティ」を見つけて、神業のようにデザインへと昇華する。

時代は違えど、龍馬のような土佐の熱き魂を持つデザイナー、梅原氏を山梨にお招きいたします。デザイン業界では、有名なものもちろん。日経ビジネスオンラインの連載で全国的に注目されています。商品開発の手法や、地域経済の在り方、そして地域で生きる生き方へのヒントが見つかるかもしれません。彼の生き方そのものが、何者にも巻き込まれない大きな四万十川のような揺るぎない価値観を与えてくれます。「考え方をデザインする」梅原氏独特の考え方、そして彼の魅力的な土佐男の奥深さにも触れてください。



梅原真氏のお仕事は日経ビジネスオンライン「シアワセのものさし」(2009年10月23日～12月4日)で6回連載されました。http://business.nikkeibp.co.jp/

日時 2010. **1/31** 日
13:30~16:00

高知市生まれ。1979年高知放送プロダクション退社。アメリカ遊学後、1980年梅原デザイン事務所設立。デザインを「一次産業再生」のためにつかいたい。1988年 かつお一本釣り漁師とともに「一本釣り・薫焼き鰹たたき」をプロデュース、8年間で20億円の産業を作り出す。1989年、4kmの砂浜を巨大なミュージアムに見立てる「大方町・砂浜美術館」をプロデュース。2005年、流域で販売するものはすべて古新聞で包もう！をコンセプトに「しまんと川新聞バッグ」をプロデュース、世界に展開中。2009年「高知県の森林率84%は日本一。岐阜県が二番目」にサプライズ。高知県土の84%はCO2を吸収するマシンととらえ「84はちよんPROJECT」を2009年8月4日「はちよん会議」にてスタート。ニッポンの良き風景を残し続けるためのデザインでありたいと活動する。



対象 どなたでもご参加いただけます。

会場 山梨県立大学・飯田キャンパス講堂
[甲府市飯田5丁目11-1]

お申込 受講を希望される方は、ご記入のうえFAX、またはメール、お電話にてお申込ください。
山梨県立大学 地域研究交流センター TEL: 055-224-5260
FAX: 055-224-5386 E-mail: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

受講
無料



お名前			
ご連絡先	tel	fax	e-mail
ご住所	〒		

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター／協力：山梨県工業技術センター JAGDA山梨地区

平成 21 年度山梨県立大学・デザイン特別講座「つながりを育むデザイン」第 4 回

場づくりのデザイン

～環境活動、地域活動の現場から～

学校や企業・組織といった枠を超えて人が集まり、環境や地域をより良くしよう、という活動が活発になりつつあります。

同じ興味や志を持つ人が集まり、新しい未来をつくるための場づくりのデザインとは一。

クリエイティブで持続可能な未来を考えるウェブマガジン greenz.jp のクリエイティブディレクターであり、

イベントプランニングやグリーンジャーナリストとしても活躍中の兼松佳宏さんを講師に、

日本だけでなく、世界のさまざまな活動から見えてくる「場づくりのデザイン」についてお話いただきます。

日時

2010. 2. 6 土 13:30 ~ 15:30

講師

兼松 佳宏 (Yoshihiro KANEMATSU)

greenz.jp クリエイティブディレクター／グリーンジャーナリスト／株式会社ピオピオ取締役。79 年秋田生まれ『クリック募金』など CSR の IT コンサルを行う株式会社 dff に所属しながら、「ソーシャルクリエイティブ」をテーマに、アースデイマナー、BeGoodCafe、Merry Project、チョコレボなどのウェブ制作に関わる。

2006 年に独立「デザインとビジネスとサステナビリティ」をつなぐクリエイティブエージェンシー Whynotnotice inc. を設立し、greenz.jp の立ち上げにウェブデザイナーとして参画。現在は株式会社ピオピオと greenz.jp のメンバーとして、ウェブディレクションやイベントプランニング、執筆活動などを行っている。



greenz.jp

<http://greenz.jp/>

対象

一般県民

- 学生、一般 問わず、ご興味のある方は どなたでもご参加いただけます。
- 受講は無料です。

会場

山梨県立大学・飯田キャンパス サテライト教室

[甲府市飯田5丁目 11-1]



お申込

- 受講を希望される方は、FAX またはEメールに、下記内容をご記入のうえお申し込みください。

山梨県立大学 地域研究交流センター FAX:055-224-5386 TEL:055-224-5260

Mail: ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp

お名前	(学校・勤務先)		
ご連絡先	tel	fax	e-mail
ご住所	〒		

主催:山梨県立大学 地域研究交流センター／協力:山梨県工業技術センター

山梨県立大学人間福祉学部・地域研究交流センター 共催講演会

「子どもと家庭への支援と地域福祉」

講演①

「地域における子どもと家庭への支援について ～日本の現状と政策動向～」

大分大学福祉科学研究センター教授 棕野美智子 氏

講演②

「英国の子どもと家庭に関連したソーシャルワークと地域福祉」

オックスフォード大学 前教授 テレザ・スミス 氏

日 時 : 2010年2月8日(月) 午後1時～3時30分

場 所 : 山梨県立大学飯田キャンパス 講堂

2009 年度は、1 日だけの集中講座！

県立大学

地域プロデューサー養成講座

主催 山梨県立大学 地域研究交流センター
～一般向けワークショップを山梨県立大学で開催～

受講者受付中

趣旨と目的： 中央集権から地域主権の時代に移行すべきだという論議が盛んに行われていますが、地域主権が成立するためには、地域自身でリーダーシップを発揮していかなければなりません。地域にとって最も必要とされているのは、誰かから頼まれたわけではなく、自発的に自律的に創造的に地域のために活動できる人材です。領域は異なっても、同じ高い志を持って、地域を牽引する多くの才能を輩出することを目指します。

内容と方法： 06 年は山梨県立大学で連続 10 回の講座を行い、07 年は忍野村、山梨市、増穂町、08 年は南アルプス市、大月市と地域で開催してきました。今年は 4 年間を総括し、大学にもどって、1 日だけの集中講座を開催します。

今回の講座は、プロジェクト実施経験からのノウハウ伝授を中心とした講義となります。受講者とのやり取りの中から、隠された意識と能力を顕在化させ、組織論・運動論を核にして、地域プロデューサーの資質を磨きます。

この講座は教養講座ではありません。自ら将来を展望して地域をデザインしていきたい、そのために自分を変えていきたいという方の参加を求めます。

日程と会場： 2010 年 2 月 20 日(土) 午前 9 時 30 分～午後 7 時(懇親会含む)

講師：前澤哲爾(山梨県立大学 国際政策学部 教授)

参加費： 無料(ただし、午後 5 時～7 時は懇親会とし、費用は割り勘とします)

詳細は、お気軽にお問い合わせください。

定員： 30 名(お申込みは、山梨県立大学で受け付けております)

内容問合せ先： 国際政策学部 前澤哲爾 070-6523-3598(PHS) 055-224-5277(研究室直通)

受講申込み先： 山梨県立大学 地域研究交流センター(甲府市飯田 5-11-1 電話 055-224-5260 相川)

以下の申込み用紙に必要事項を記入して、2 月 18 日までに E-mail: aikawa-xtf@pref.yamanashi.lg.jp

もしくは FAX 055-224-5386 までお申込みください。

***** 申込み用紙 *****

氏名 _____ 所属 _____

住所(自宅 勤務先) _____ 電話 _____

e-mail address _____

受講動機をお書きください。 _____

保育・子育て支援のためのコミュニケーション・スキルを磨く

——子ども・親・私 それぞれの思いを活かすために

日時：平成22年3月6日（土）午後1：30～4：00

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス A館6階サテライト教室

共催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科・地域研究交流センター

対象：幼稚園教諭・保育士・子育て支援者・学生など

定員：40名

参加費：無料

内容：①相手の気持ちを受けとめ、自分の思いを伝える基礎的な技法を学ぶ。

②参加者の様々な事例を材料に、子どもや親とのコミュニケーションを深めるにはどうしたらよいか、ワークショップ形式で学ぶ。

♡ 講師：田中きよみ(コミュニケーション・トレーナー) ♡

【略歴】国際基督教大学教養学部卒。NHK報道局勤務を経て、コミュニケーション・トレーナー、山梨県スクールカウンセラー、家裁調停委員を歴任し、自己開発、生涯学習の講演・講座を全国各地で行う。



日本エニアグラム

学会副理事長。同

学会専任講師。訳書に『性格タイプの見分け方』、『エニアグラムでパートナー探し』

『理性から祈りへ』（春秋社）、『女性のための人間関係講座』（大和書房）がある。

人間形成学科の教員がみなさんの学びをサポートします。日ごろの思いを持ち寄って一緒に考えましょう。ご参加をお待ちしています。

問い合わせ・申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター（電話055-224-5260）

メールの場合：件名を保育リカレント講座申込とし、ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp まで下記の項目をお知らせください。

FAXの場合：以下の申込み用紙に必要事項を記入して、FAX 055-224-5386 まで。

申込み期限：2月末日まで（定員40名になり次第、お申し込みを終了いたします。ご了承ください。）

***** 申込み用紙 *****

お名前

ご住所

（自宅・勤務先）

電話・携帯・FAX

（ご連絡が付きやすいものをお選びください）

2009 年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

発行者：地域研究交流センター長 波木井 昇

編 集：地域研究交流センター 情報発信部門

部門長 箕浦 一哉 (総合政策学科)

山本 武信 (国際コミュニケーション学科)

大塚 ゆかり (福祉コミュニティ学科)

池田 充裕 (人間形成学科)

森本 美智子 (看護学部)

大久保 ひろ美 (看護学部)

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5 丁目 11-1

TEL：055-224-5310 FAX：055-224-5330

E-mail：ucrc@yamanashi-ken.ac.jp

URL： <http://www.yamanashi-ken.ac.jp/modules/tinyd6/>

発行日：2010 年 3 月 31 日

